

授業外学修時間及び学修行動に関する調査報告

2021年10月

駿河台大学 IR 実施委員会

1. 概要

教育の質の向上の一環として、「学生の主体的な学修」の涵養が求められている中で、本学においては、学生委員会が実施する「学生生活基本調査」において、学修時間や学修行動等に関する設問を設けて調査を行い、その結果を「駿河台大学ニュース」等で学内外に公表しています。

今回の調査では、学生の学修時間や学修行動について、前年度以前の調査と比較したうえで、学生の状況を認識するとともに、教育活動の妥当性を検討するための基礎資料として活用するために、とりまとめました。

2. 集計・分析

(1) 2020年度学生生活基本調査の概要

実施期間：2020年10月12日（月）から10月30日（金）まで

調査対象者：全学部・全学年の学生4,084名

調査方法：ポータルサイトを通じて調査依頼。回答は、C-learningシステム上で回答

参考：2018年度以前は各学部必修演習科目の授業時間内に質問紙を配布・回収

回答総数：438名（回答率10.7%）

参考：2019年度回答率49.1%、2018年度回答率48.9%、2017年度回答率54.0%

学部	1年	2年	3年	4年	計
法	40	27	24	10	101
経済経営	38	17	17	16	88
メディア情報	37	23	22	5	87
スポーツ科学/現代文化	23	10	15	5	53
心理	48	29	20	12	109
計	186	106	98	48	438

2020年度調査について、特に回答率が2019年度以前の約50%から10.7%と大幅に低下しています。

また、学部別では、スポーツ科学/現代文化学部、学年別では4年次生の回答率が低くなっています。

2020年度の授業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、春学期は全ての授業をオンライン授業（一部は学期末に対面式の補講を実施）とするとともに、秋学期についても対面式とオンライン授業のハイブリッド型を取り入れたものの、多くの科目はオンライン授業としての実施をせざるを得ませんでした。

2019年度以前との比較に際しては、オンライン授業の実施に加え、回答率の低下から回答者の層が変化している可能性が想定されます。

3. 学修時間に関する結果概要

(1) 学生生活基本調査における学修時間該当設問

設問12 あなたは、授業以外の学修に週に平均どの位の時間をかけていますか。

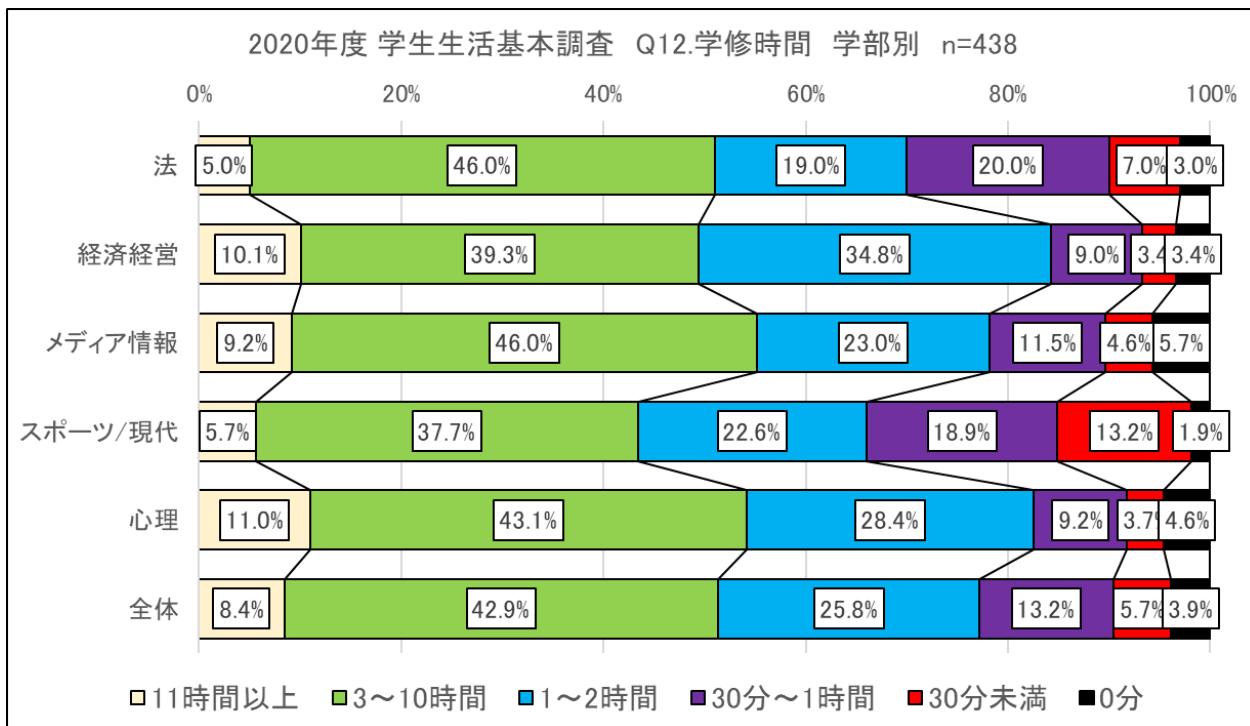
20時間以上	16～20時間	11～15時間	6～10時間	3～5時間
1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	

前3年の調査では、1時間以内が6割程度を占めていましたが、2020年は全学部で「0分」が4%、「30分未満」が6%、「30分～1時間」が13%と、1時間以内の割合は全体の23%と少なくなっています。一方で、学修時間が3時間以上の割合は、前3年で2割程度でしたが、2020年は52%と割合を高めています。

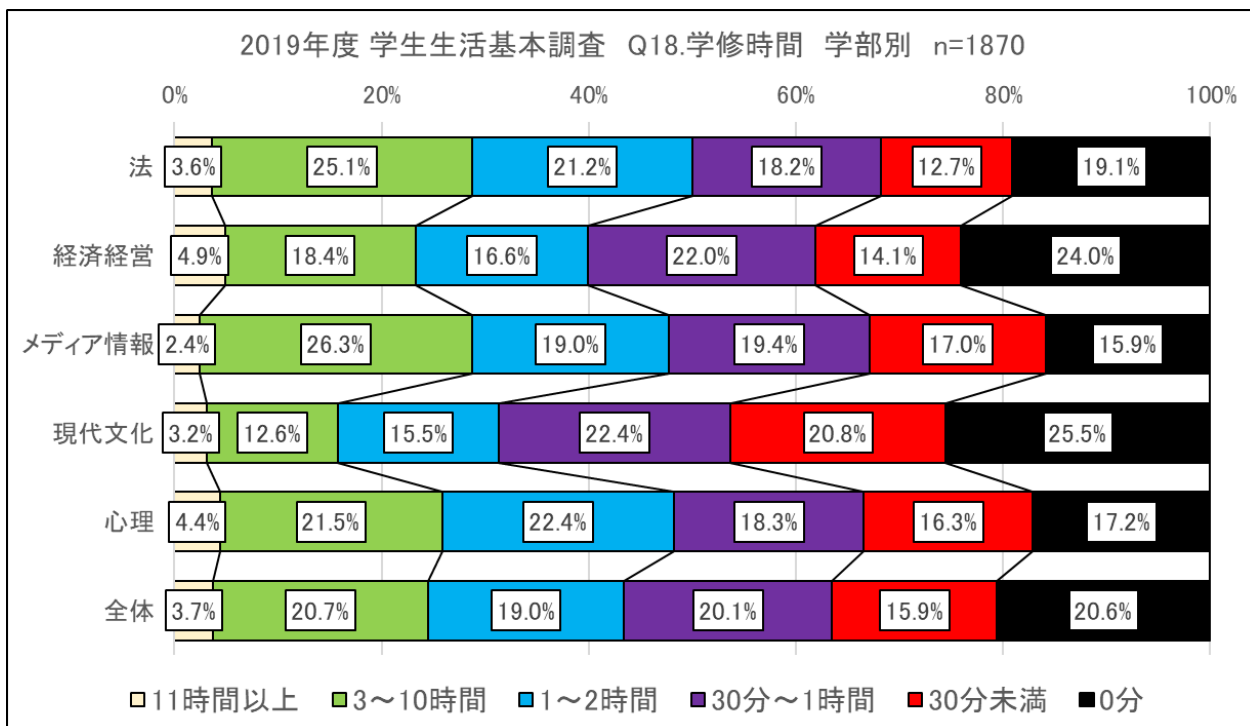
要因としては、オンライン授業での課題取組等に要した時間の増加が想定されます。

(2) 学部別集計

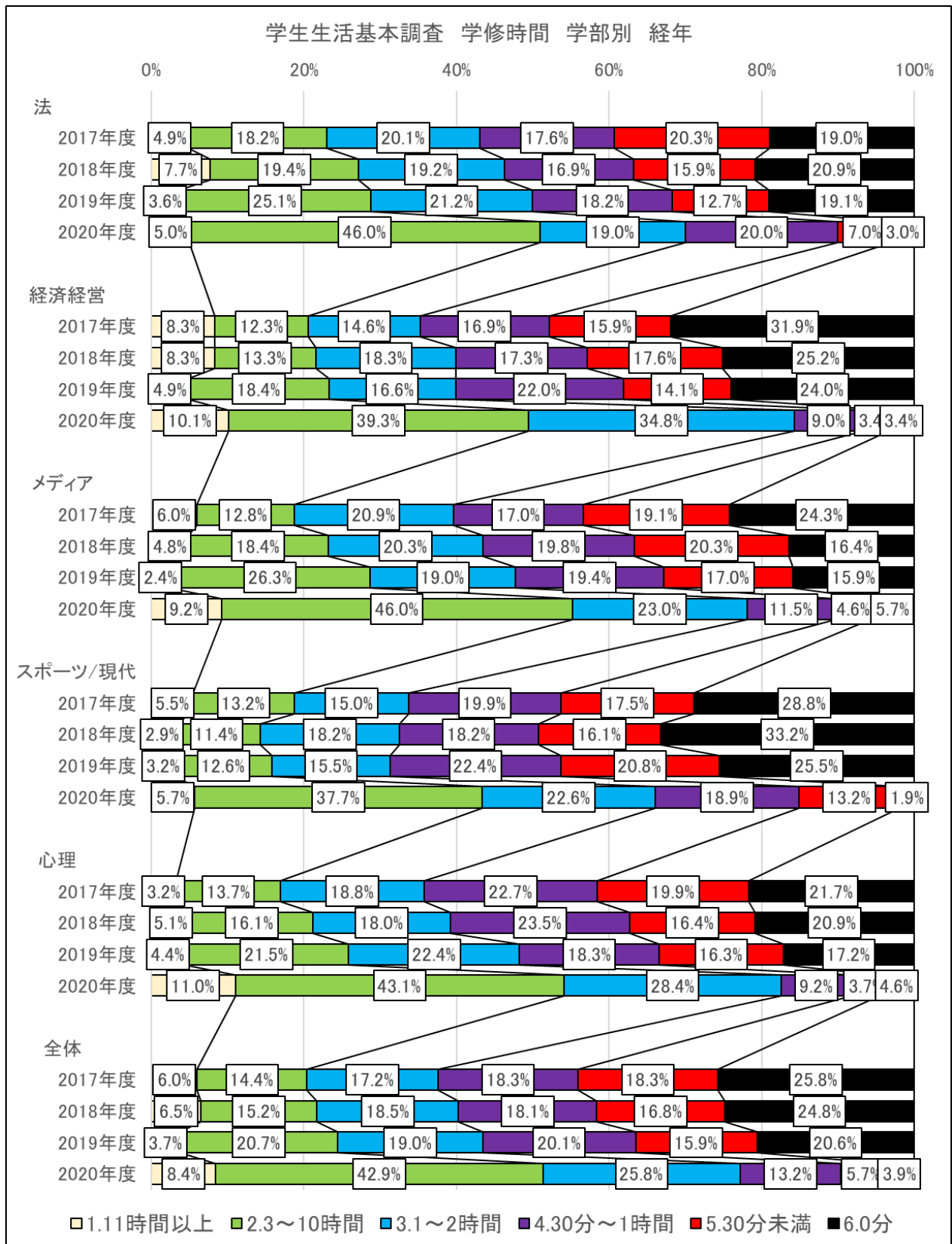
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、スポーツ科学部/現代文化学部が34%と最も高く、経済経営学部が15%と最も低い結果となりました。一方、学修時間が3時間以上の割合は、メディア情報学部及び心理学部が55%で最も多く、次いで、法学部が51%、経済経営学部が49%、スポーツ科学部/現代文化学部が44%となり、いずれの学部についても前3年とは傾向が変わっています。



参考) 2019年度調査



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較



学生生活基本調査 学修時間 学部別 経年

学部	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
法							
2017年度	18	67	74	65	75	70	369
2018年度	31	78	77	68	64	84	402
2019年度	17	117	99	85	59	89	466
2020年度	5	46	19	20	7	3	100
経済経営							
2017年度	25	37	44	51	48	96	301
2018年度	23	37	51	48	49	70	278
2019年度	19	72	65	86	55	94	391
2020年度	9	35	31	8	3	3	89
メディア							
2017年度	14	30	49	40	45	57	235
2018年度	10	38	42	41	42	34	207
2019年度	7	76	55	56	49	46	289
2020年度	8	40	20	10	4	5	87
スポーツ/現代							
2017年度	18	43	49	65	57	94	326
2018年度	8	32	51	51	45	93	280
2019年度	12	48	59	85	79	97	380
2020年度	3	20	12	10	7	1	53
心理							
2017年度	9	38	52	63	55	60	277
2018年度	16	50	56	73	51	65	311
2019年度	15	74	77	63	56	59	344
2020年度	12	47	31	10	4	5	109
全体							
2017年度	105	250	299	319	318	448	1739
2018年度	112	262	319	312	289	427	1721
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438

(2) 学年別集計

学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、4年次で15%、3年次で17%、2年次で20%、1年次で30%と学年が進むにつれて割合が高くなっています。一方、学修時間が3時間以上の割合は、3年次で62%、2年次で56%、4年次で48%、1年次で44%と1年次の割合が低くなっています。

履修科目数が1.2年次では20科目を超えていますが、3.4年次生では履修科目数が少なくなり、特に4年次生では必修演習のみの学生がいることも考えると、高学年程、1科目にかける時間の割合は高くなっていること、1年次における学修時間が他の学年に比べて少ないことが挙げられます。

経年では、学部別と同様、いずれの学年についても前3年とは傾向が変わっています。

2020年度履修科目数

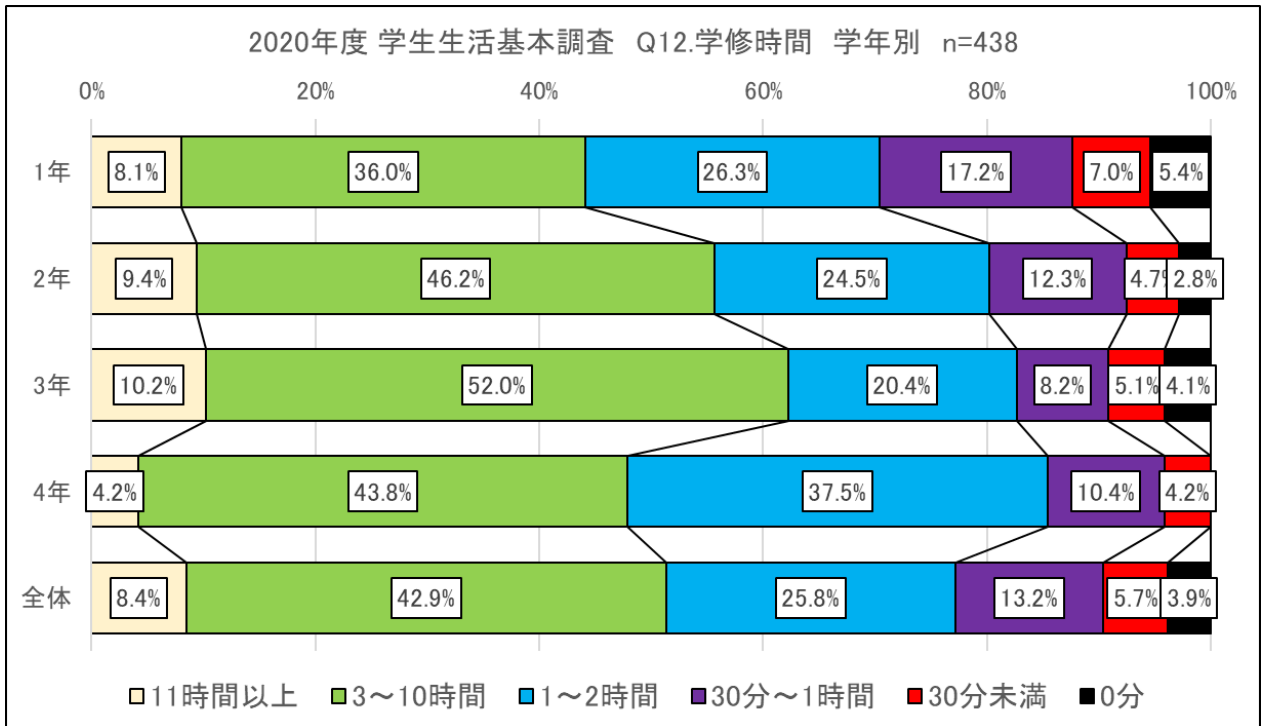
履修科目数	1年	2年	3年	4年	計
01-03科目	0	3	3	342	348
04-06科目	0	1	0	202	203
07-09科目	0	2	4	116	122
10-12科目	0	1	9	54	64
13-15科目	0	7	145	41	193
16-18科目	1	1	313	25	340
19-21科目	7	30	231	20	288
22-24科目	77	728	270	46	1121
25-27科目	607	156	33	10	806
28-30科目	261	20	10	0	292
31科目以上	139	78	10	1	227
計	1092	1027	1028	857	4004

※ 教職課程等卒業要件外科目、単位認定科目も含む

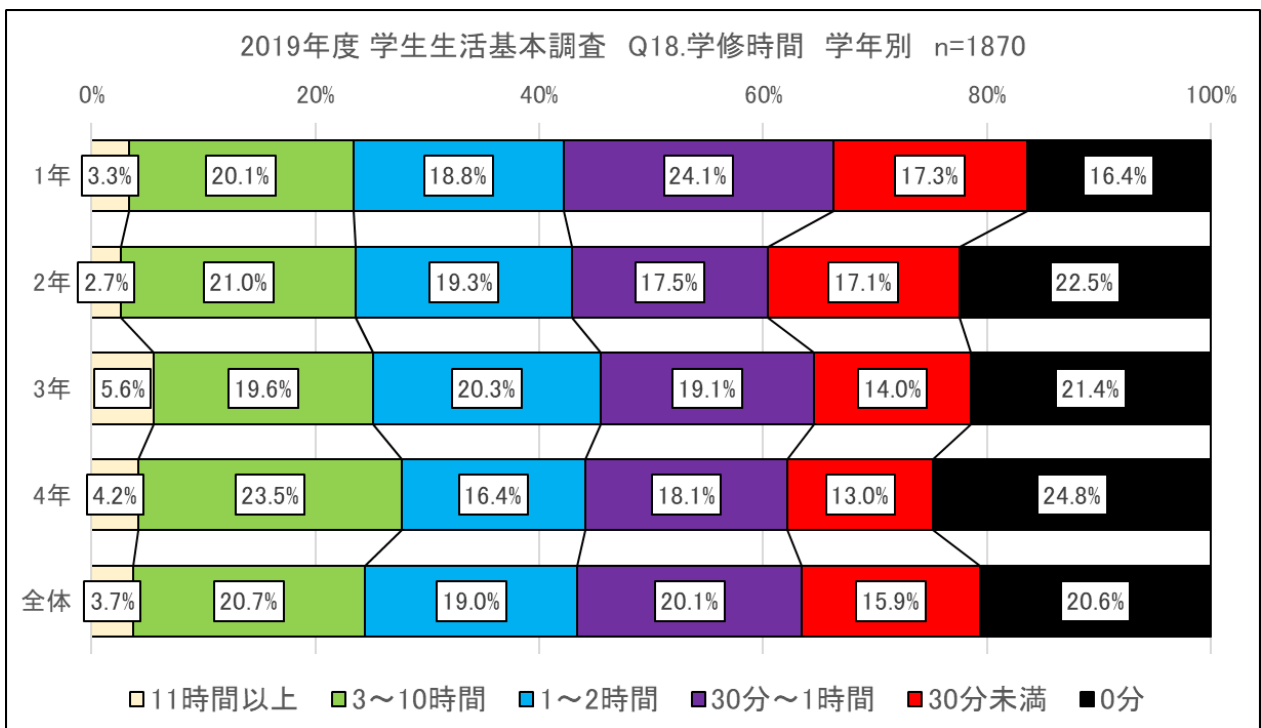
※ 過年度生を除く

2020年度学部学年別平均履修科目数

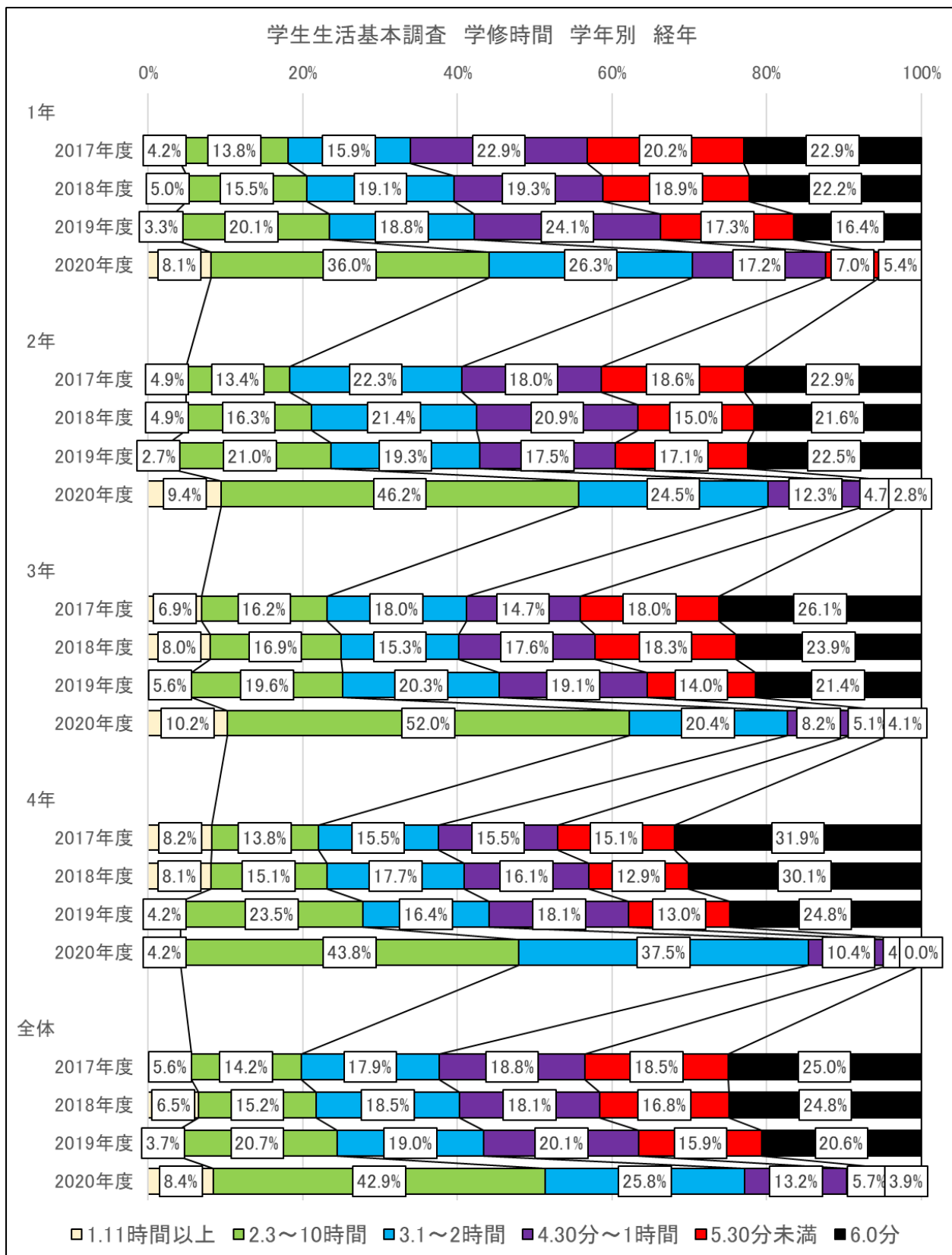
学部	1年	2年	3年	4年	計
法	25.5	23.2	20.0	5.7	19.7
経済経営	26.9	23.7	18.6	7.2	19.4
メディア情報	27.3	23.6	19.3	7.8	20.4
スポーツ科学/現代文化	30.6	27.1	19.0	7.6	21.8
心理	25.1	23.8	19.3	7.1	19.2
計	27.2	24.3	19.3	7.0	20.1



参考) 2019年度調査



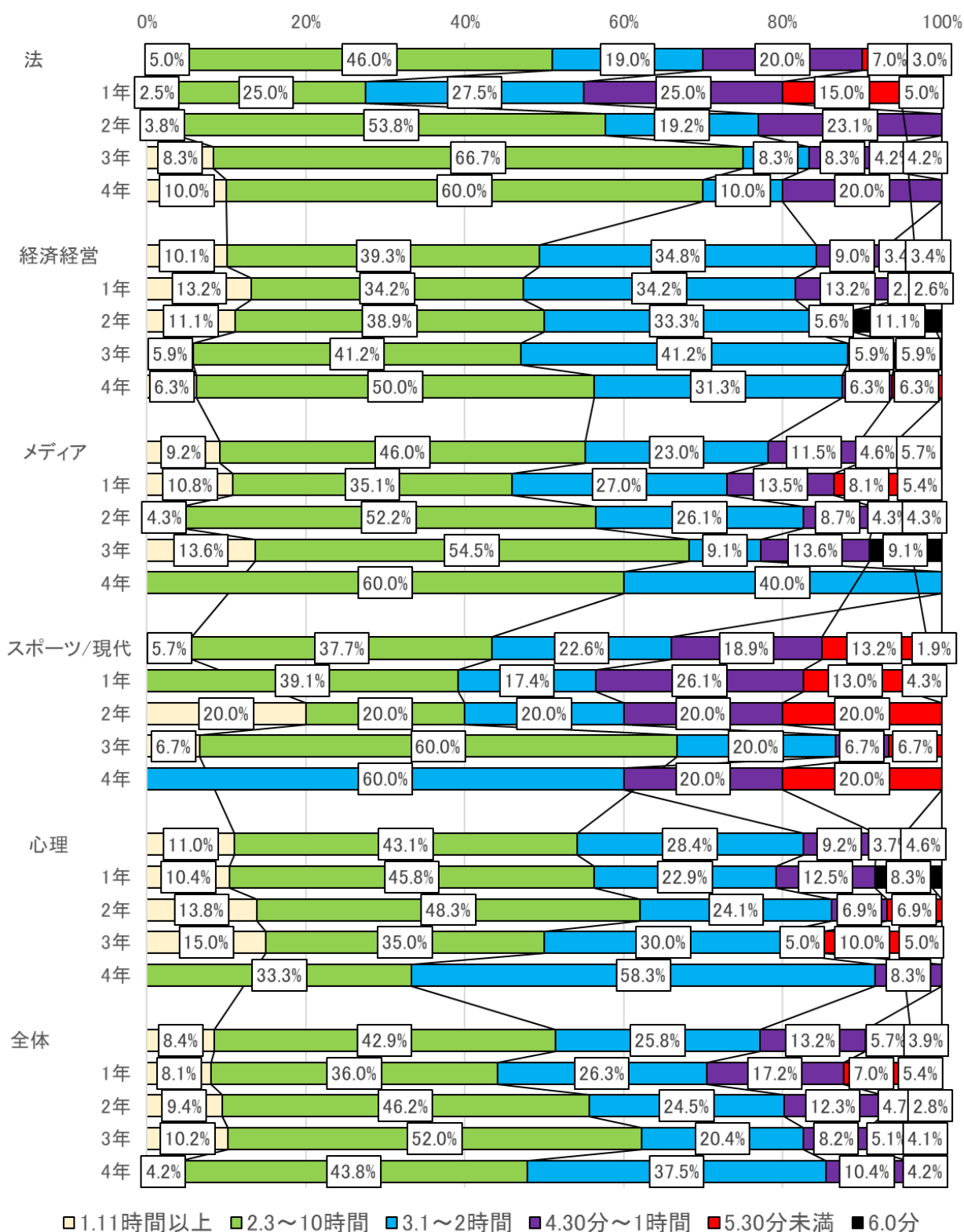
参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

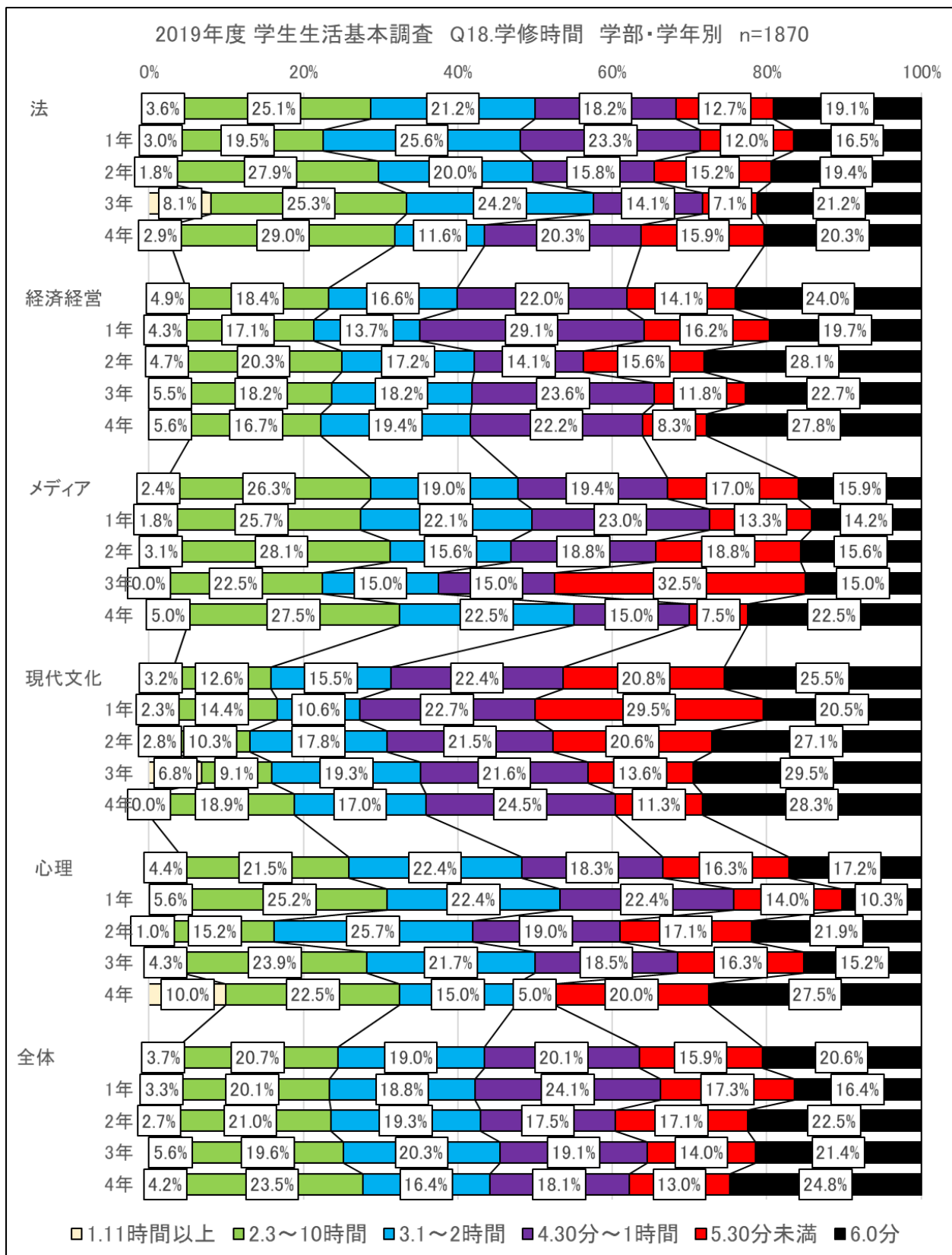


学生生活基本調査 学修時間 学年別 経年

学年	11時間以上	3～10時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	0分	計
1年							
2017年度	25	82	94	136	120	136	593
2018年度	29	89	110	111	109	128	576
2019年度	20	121	113	145	104	99	602
2020年度	15	67	49	32	13	10	186
2年							
2017年度	17	47	78	63	65	80	350
2018年度	20	67	88	86	62	89	412
2019年度	16	126	116	105	103	135	601
2020年度	10	49	26	13	5	3	106
3年							
2017年度	23	54	60	49	60	87	333
2018年度	24	51	46	53	55	72	301
2019年度	24	84	87	82	60	92	429
2020年度	10	51	20	8	5	4	98
4年							
2017年度	19	32	36	36	35	74	232
2018年度	15	28	33	30	24	56	186
2019年度	10	56	39	43	31	59	238
2020年度	2	21	18	5	2		48
全体							
2017年度	84	214	270	284	279	377	1508
2018年度	112	262	319	312	289	427	1721
2019年度	70	387	355	375	298	385	1870
2020年度	37	188	113	58	25	17	438

2020年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間 学部・学年別 n=438



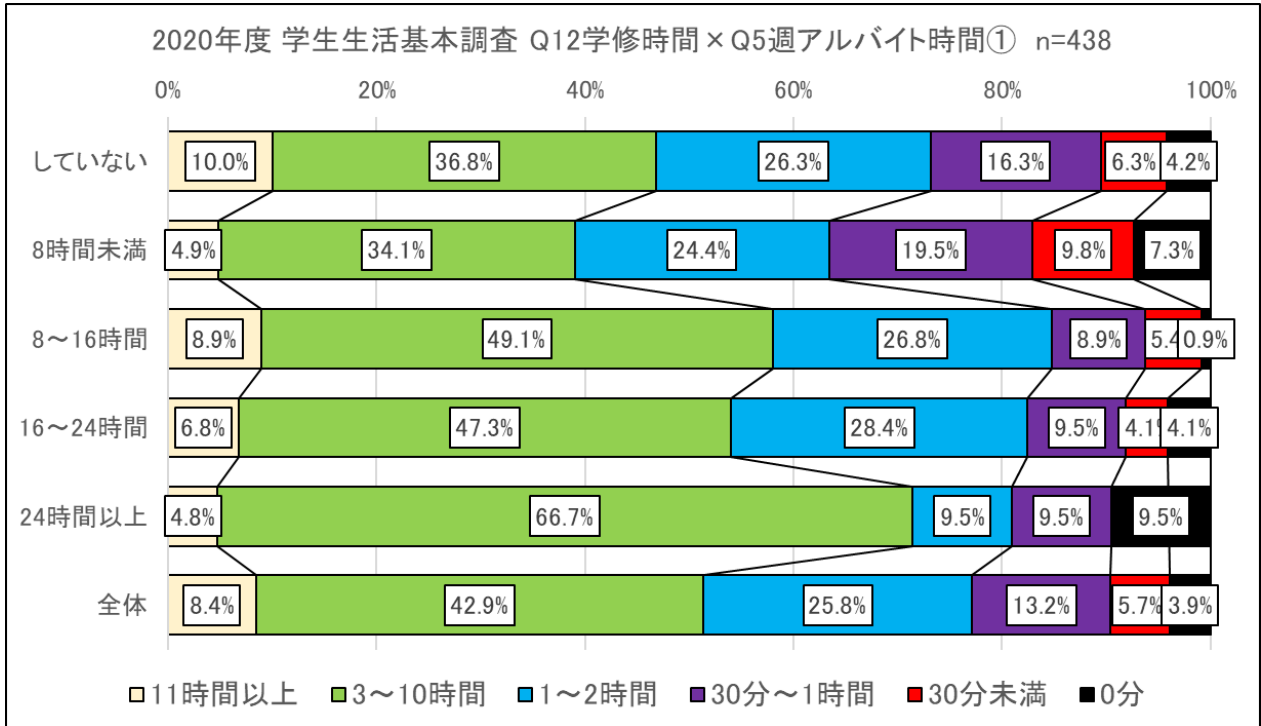


(4) 週当たりアルバイト時間とのクロス集計

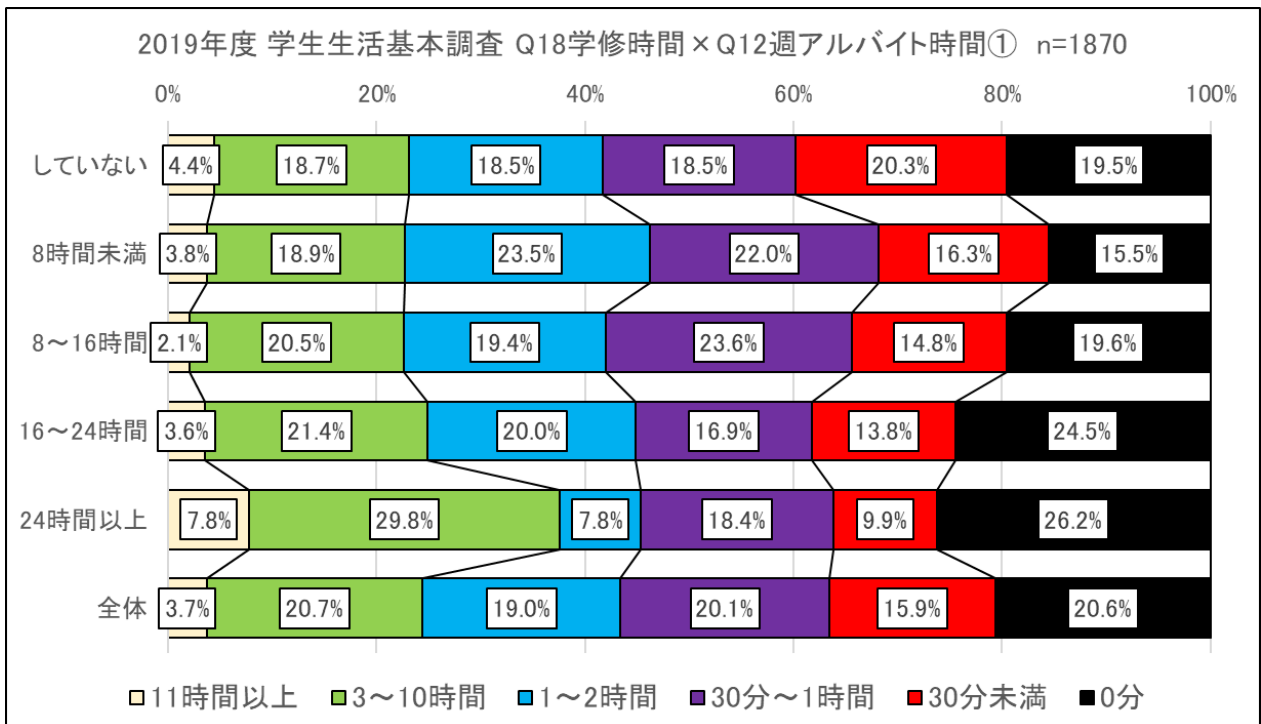
学修時間と週当たりのアルバイト時間についてのクロス集計を行いました。

週当たりのアルバイト時間の構成比は「していない」43%、「8時間未満」9%、「8～16時間」26%、「16～24時間」17%、「24時間以上」5%で、前3年で30%程度であった「していない」の割合が高くなっています。

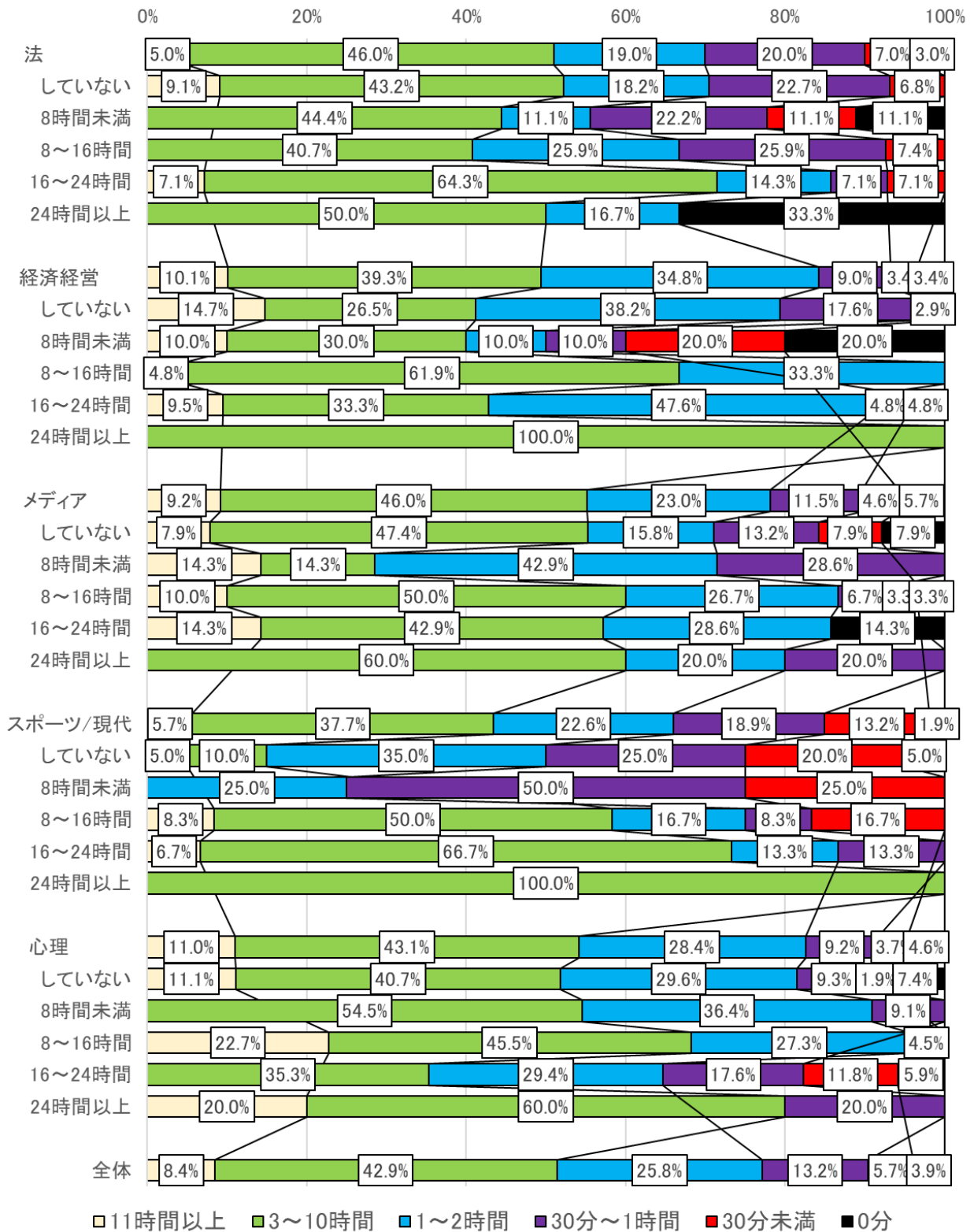
学修時間が1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）の割合は、アルバイト時間が増えるにつれて、高くなる傾向（2019年度は「0分」のみ該当）が続いていましたが、今年度の調査では、「8時間未満」「していない」における割合が高くなり、前3年とはやや異なる結果となりました。回答数が多い1.2年生の傾向を反映していると考えられます。



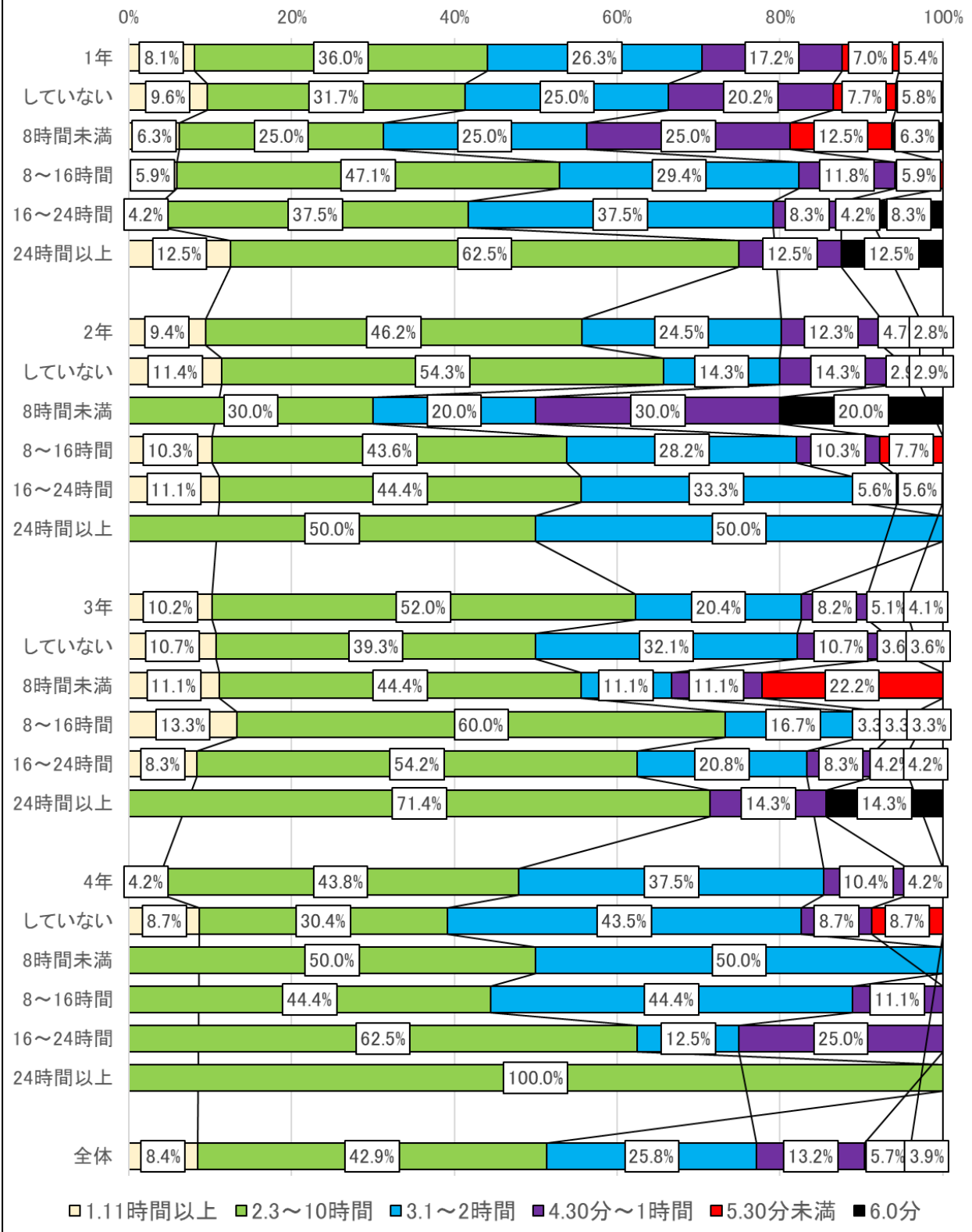
参考) 2019年度調査



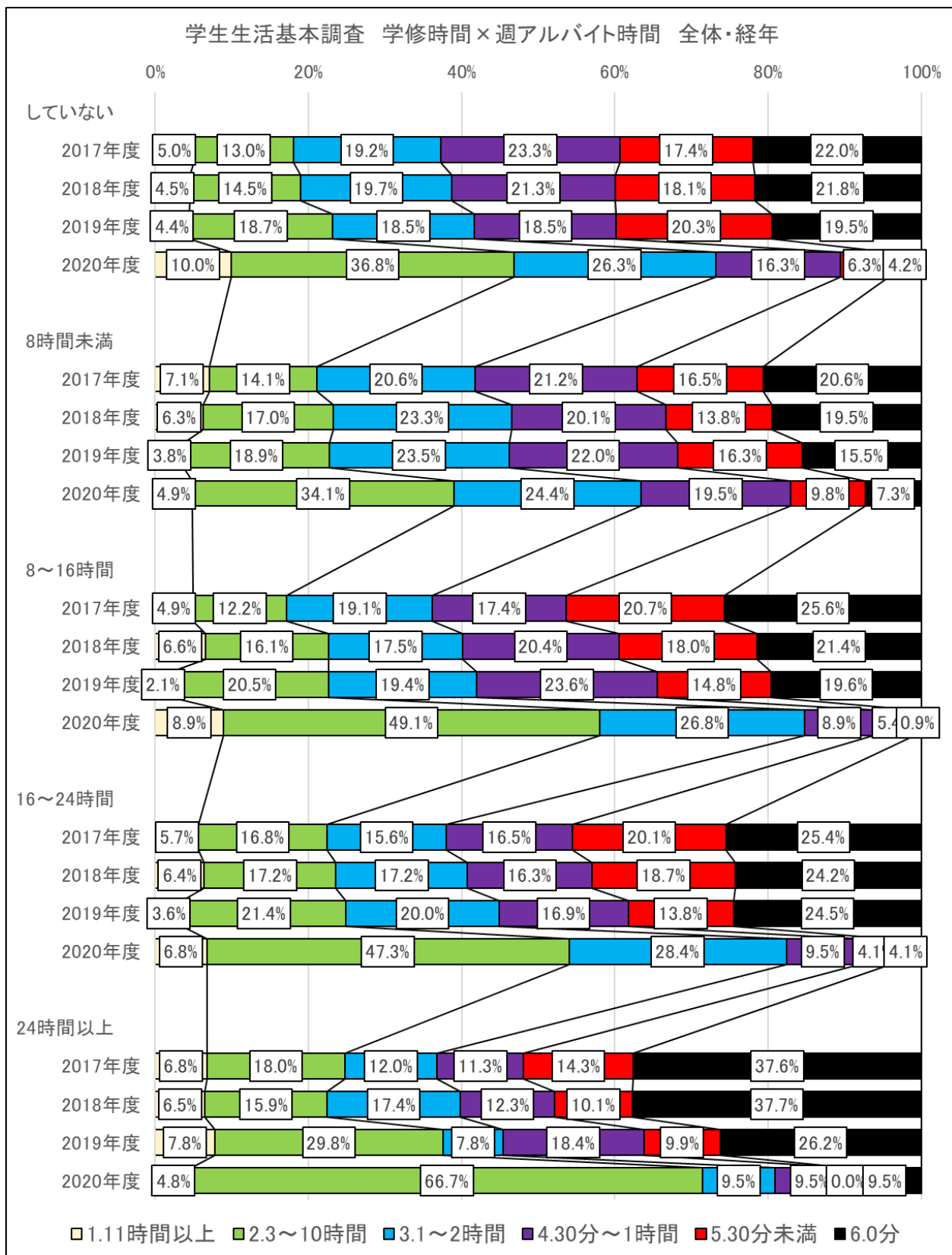
2020年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間② n=438



2020年度 学生生活基本調査 Q12.学修時間×Q5週アルバイト時間③ n=438



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較



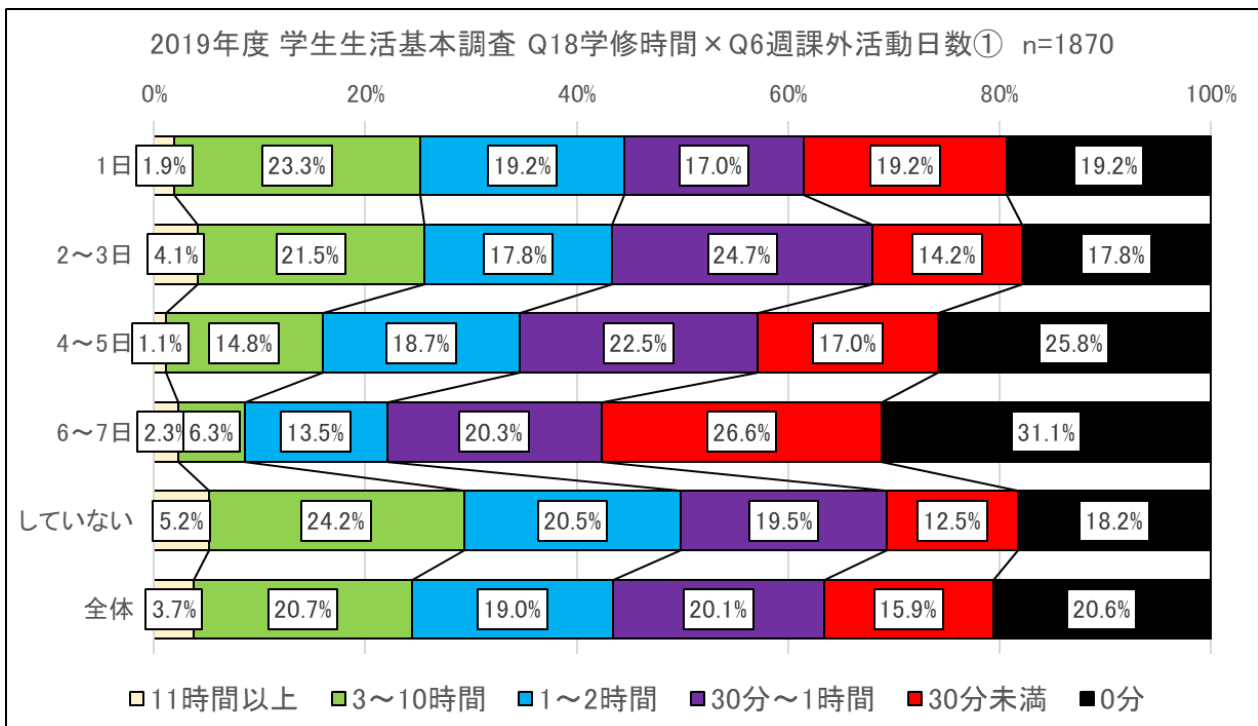
(5) 週当たり課外活動日数とのクロス集計

2020年度調査では、週当たり課外活動日数に関する設問は設けていません。

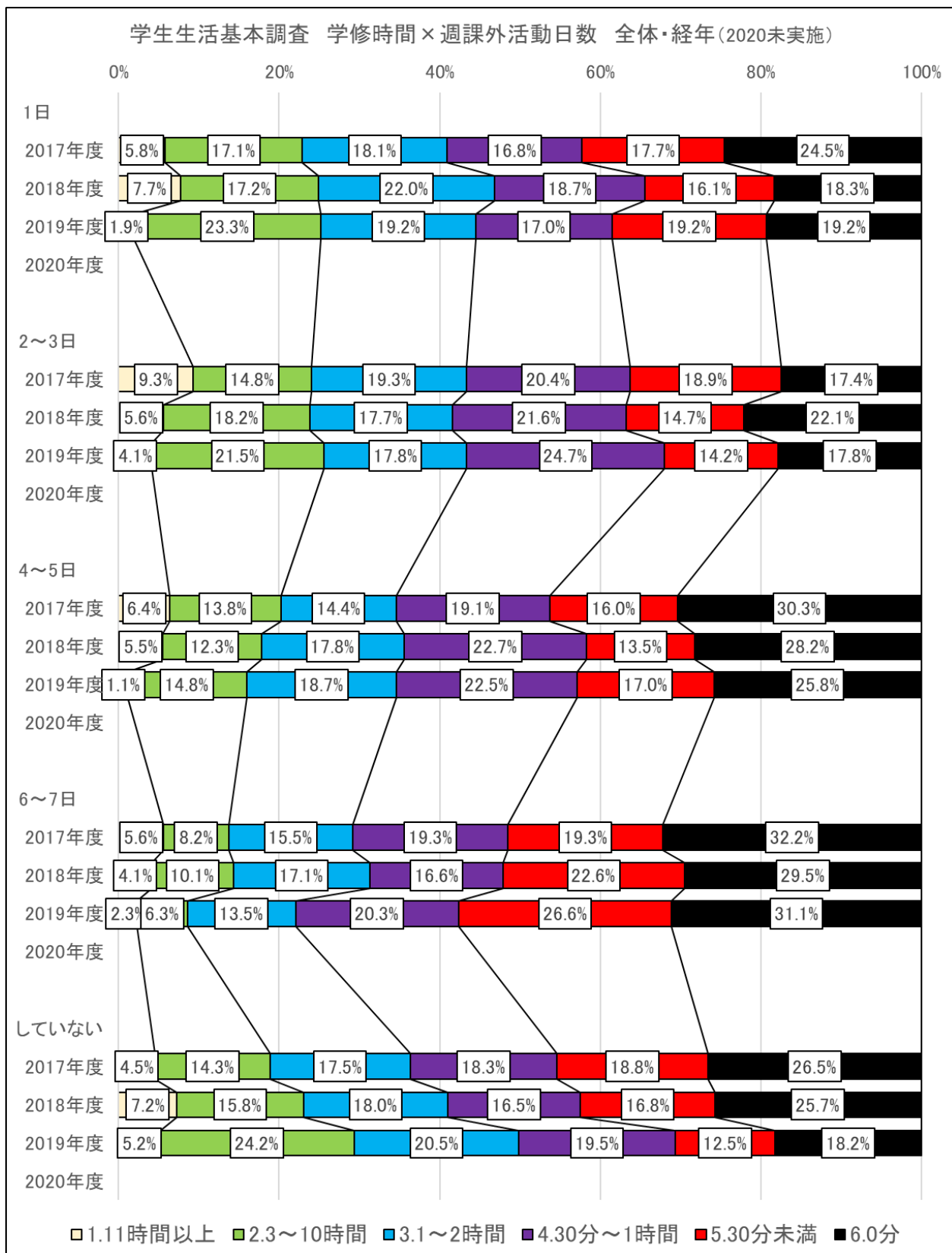
前3年の調査では、活動をしている者について、活動日数が増えるにつれて学修時間が少なくなる傾向が出ています。



参考) 2019年度調査



参考) 2017年度から2019年度調査経年比較

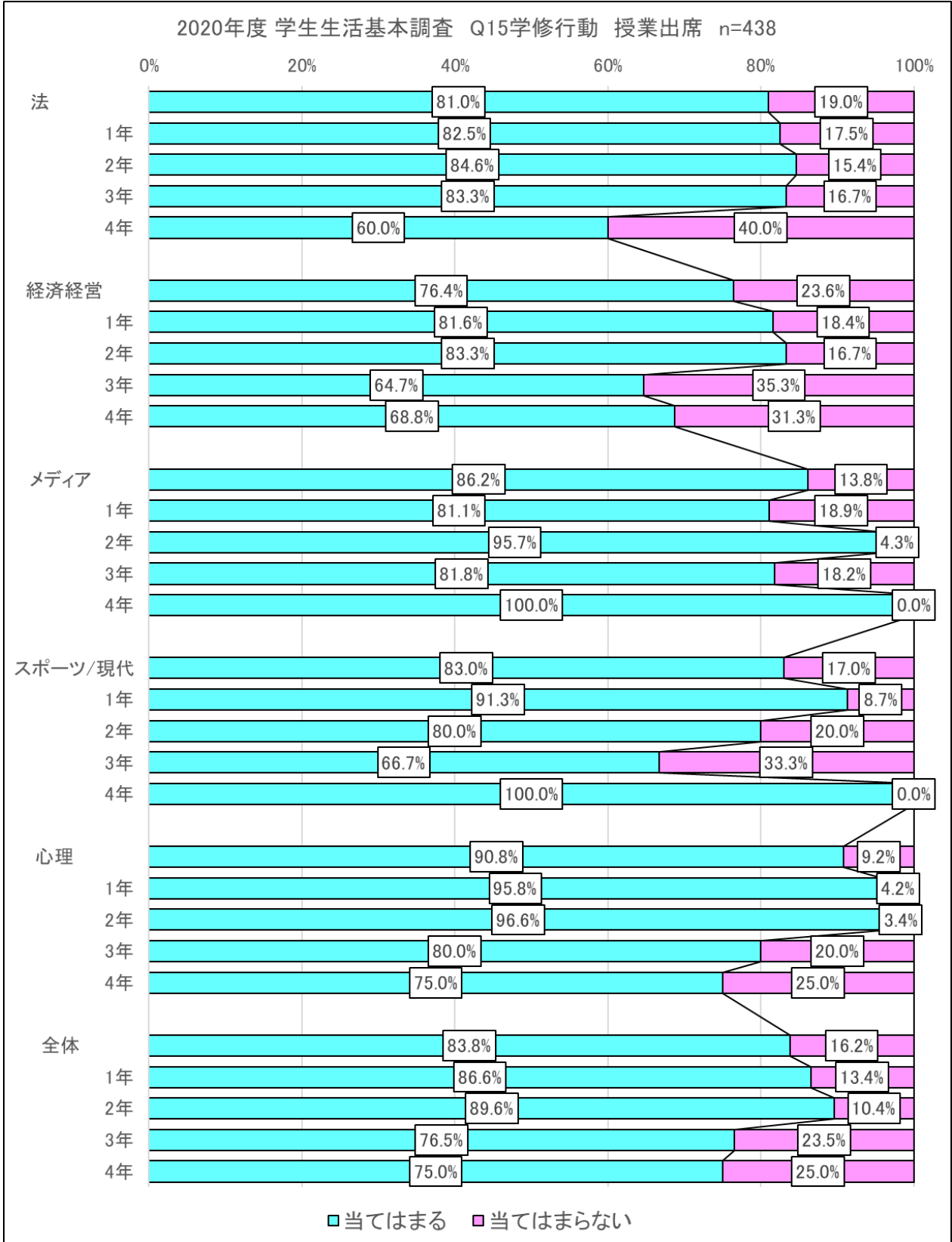


4. 学修行動に関する調査結果概要

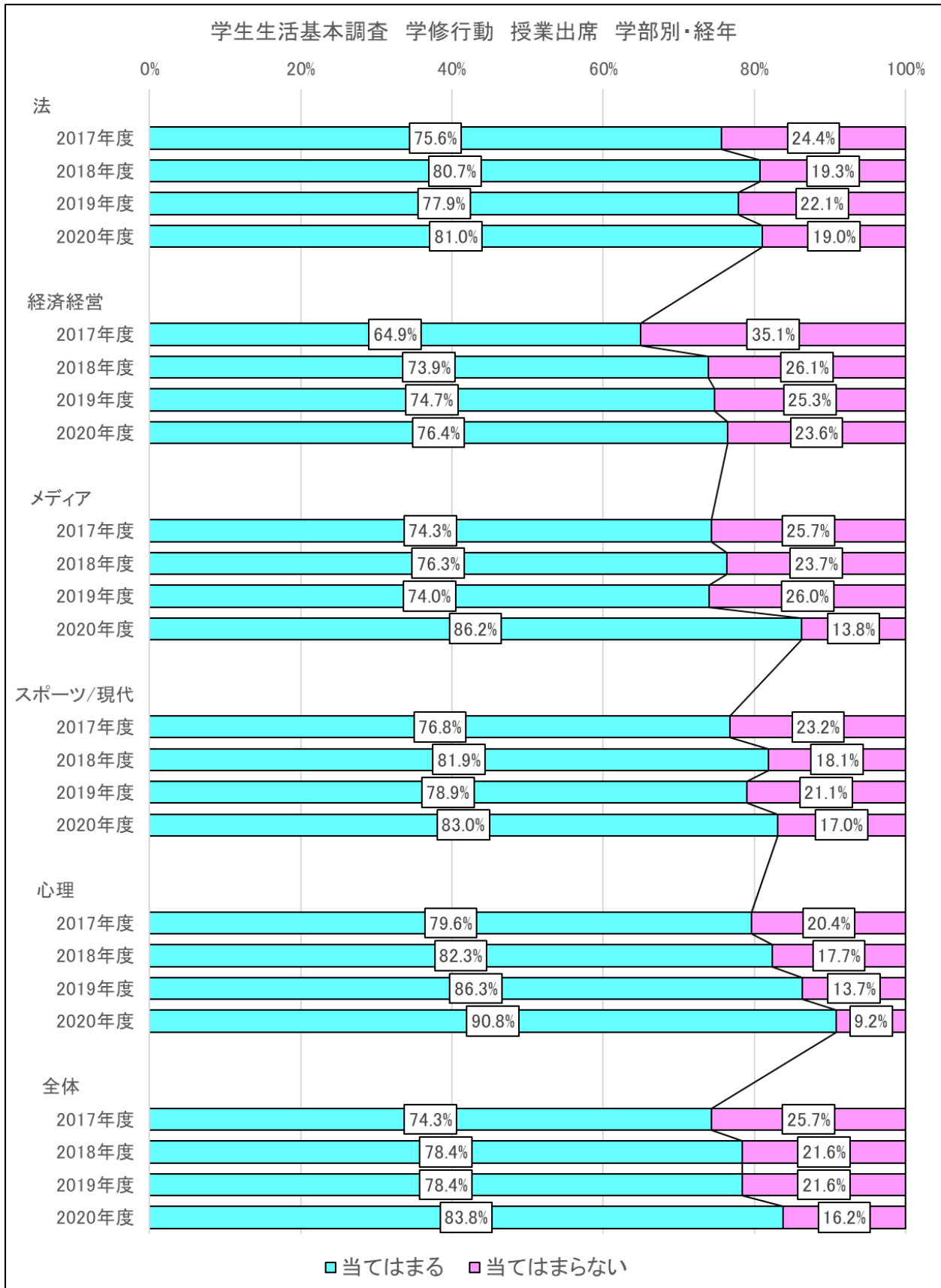
(1) できる限り授業に出席する

2020年度調査では、できる限り授業に出席するについては、各学部とも前3年よりも「当てはまる」を選択した者の割合が15%程度高くなっていますが、学年が上がるにつれて割合が低くなっています。

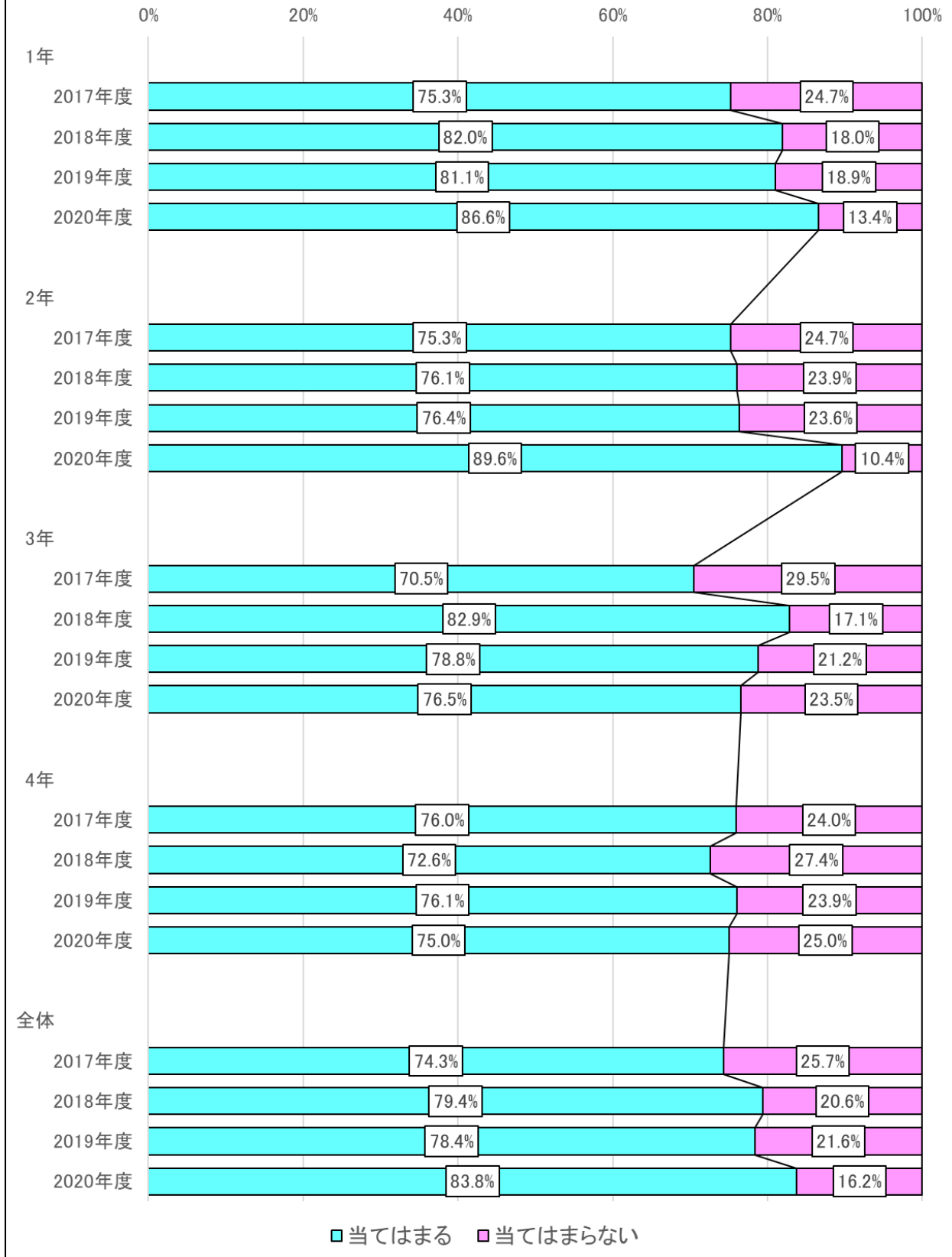
経年では心理学部の「当てはまる」がやや高いですが、学年別では2020年度程の差は見られません。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

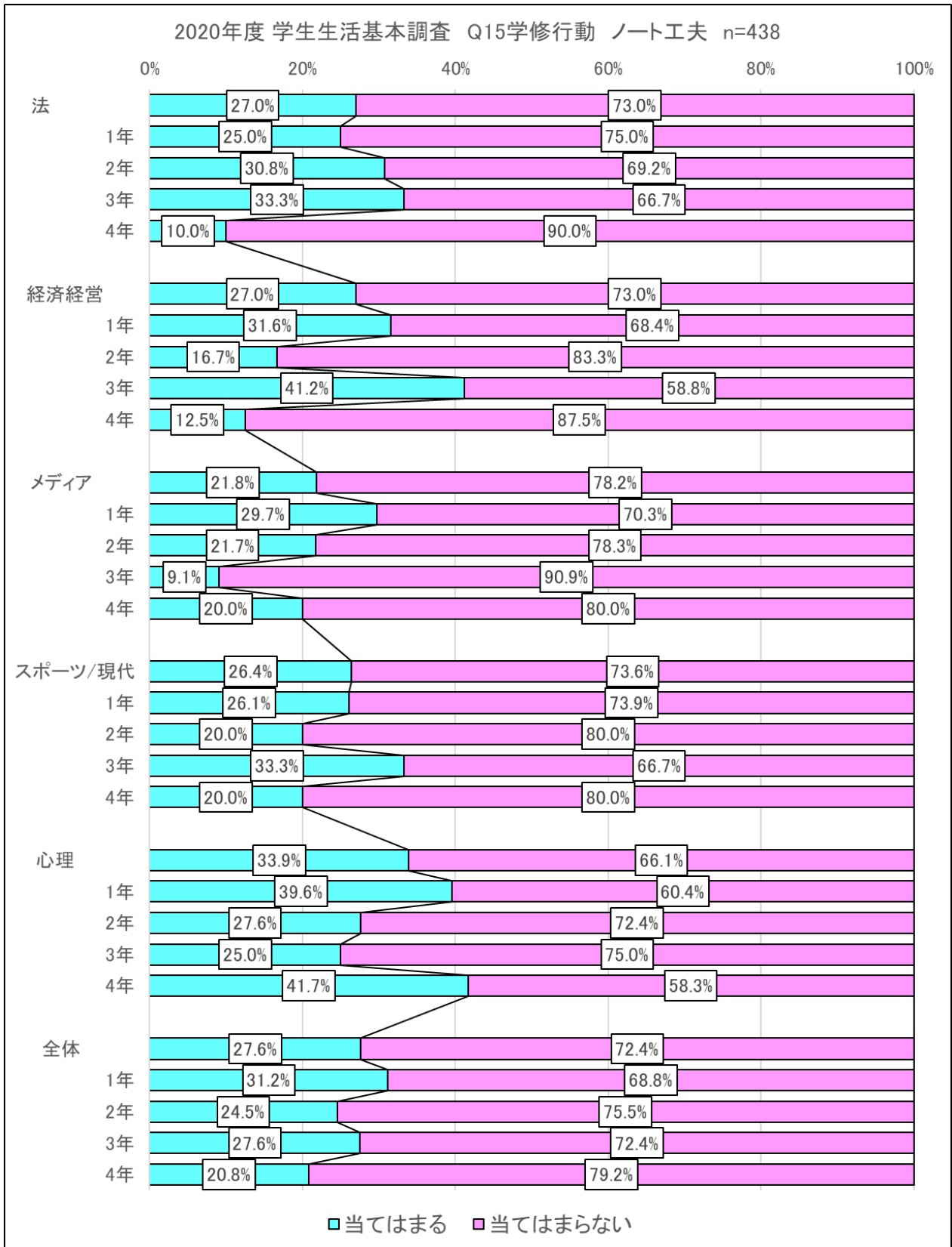


学生生活基本調査 学修行動 授業出席 学年別・経年

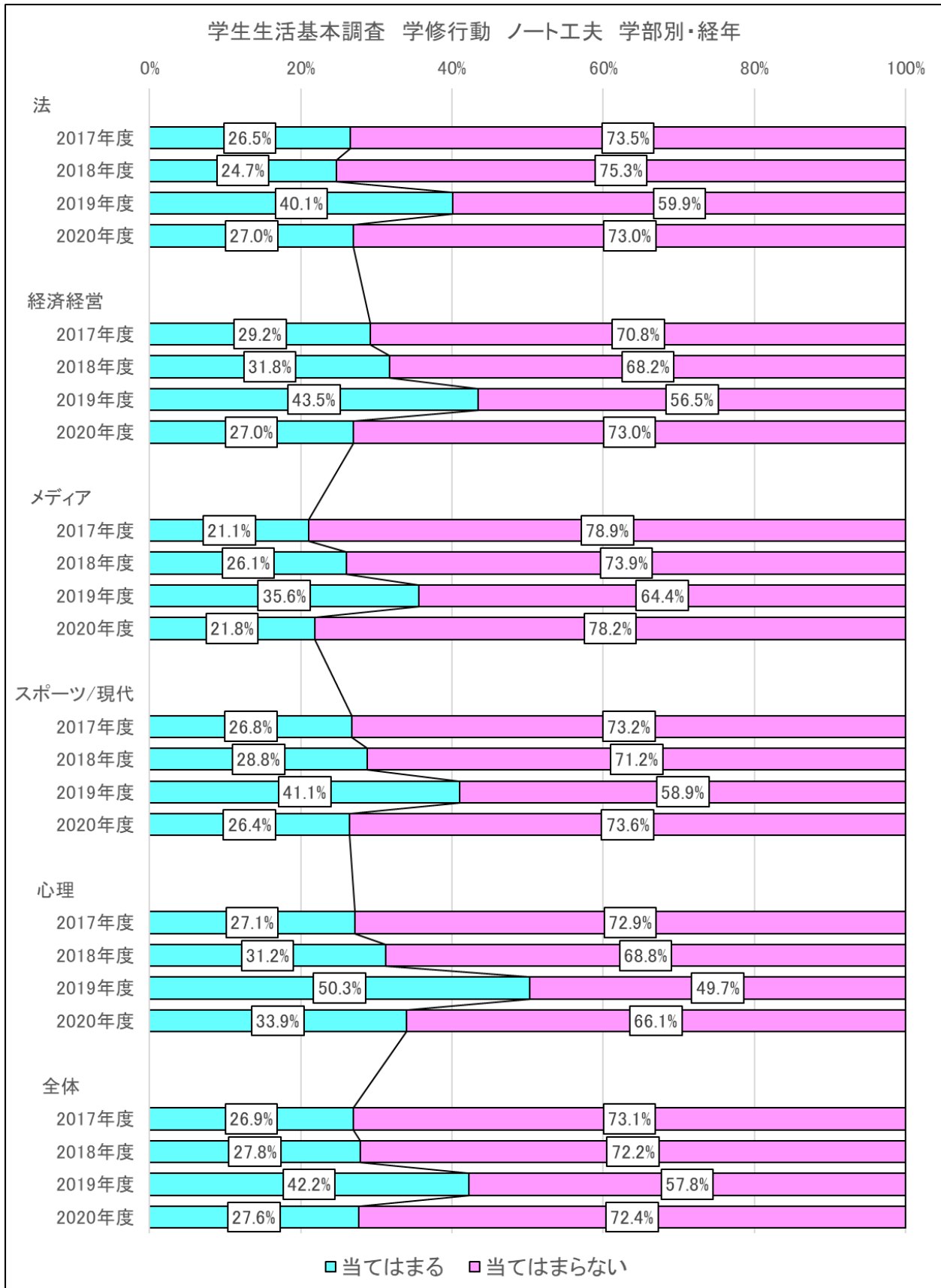


(2) ノートの取り方を工夫する

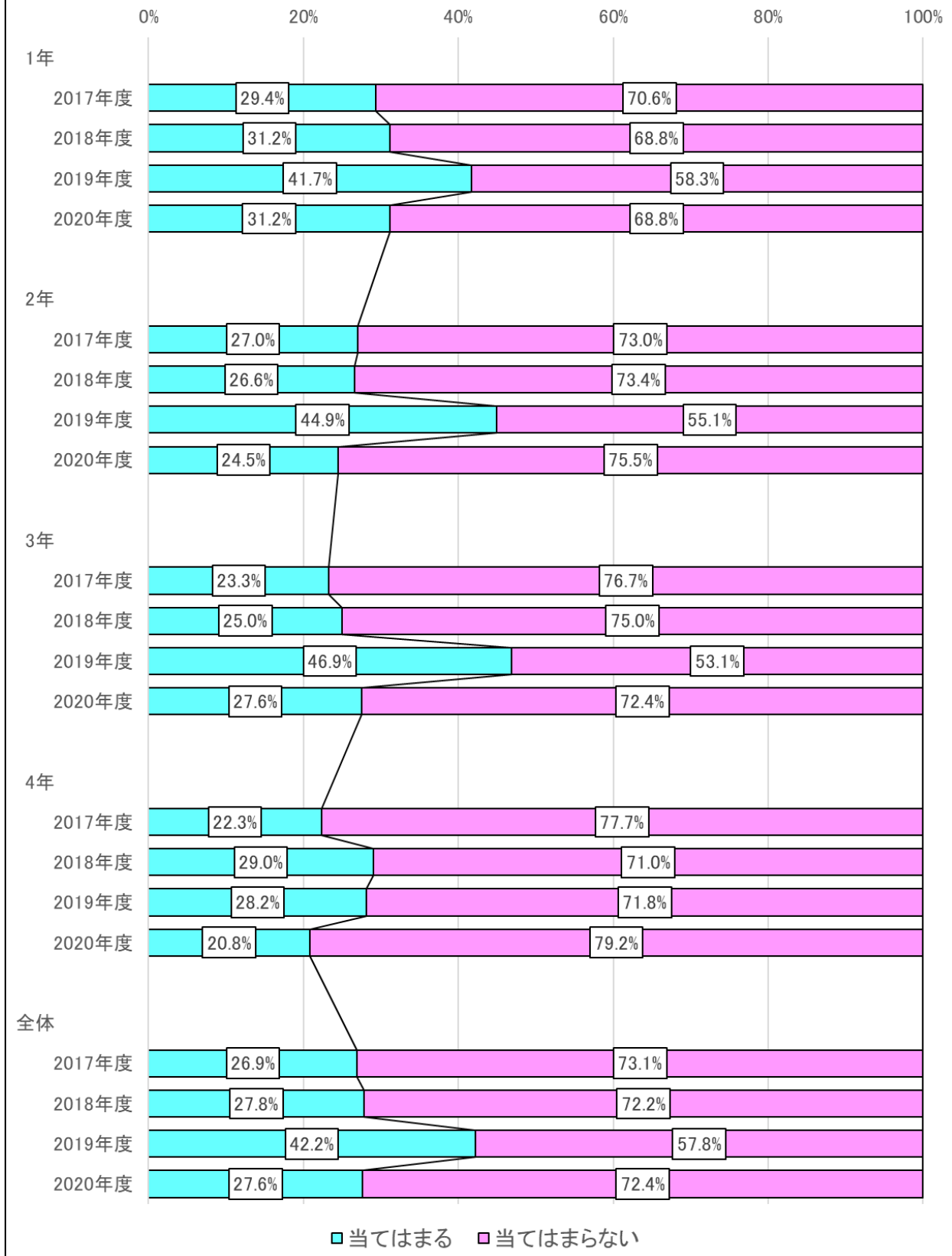
2020年度調査では、各学部とも全体では「当てはまる」が概ね1/4、「当てはまらない」が概ね3/4となっています。「当てはまる」者の割合は1年生で高く、4年生で低くなっており、2,3年生は学部で差があります。経年では、2019年度にWeb調査に変更した際に「当てはまる」の割合が高くなる変化が見られましたが、今回は2017,18年度とほぼ同じ割合に戻っています。また、学年別での大きな差は見られません。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

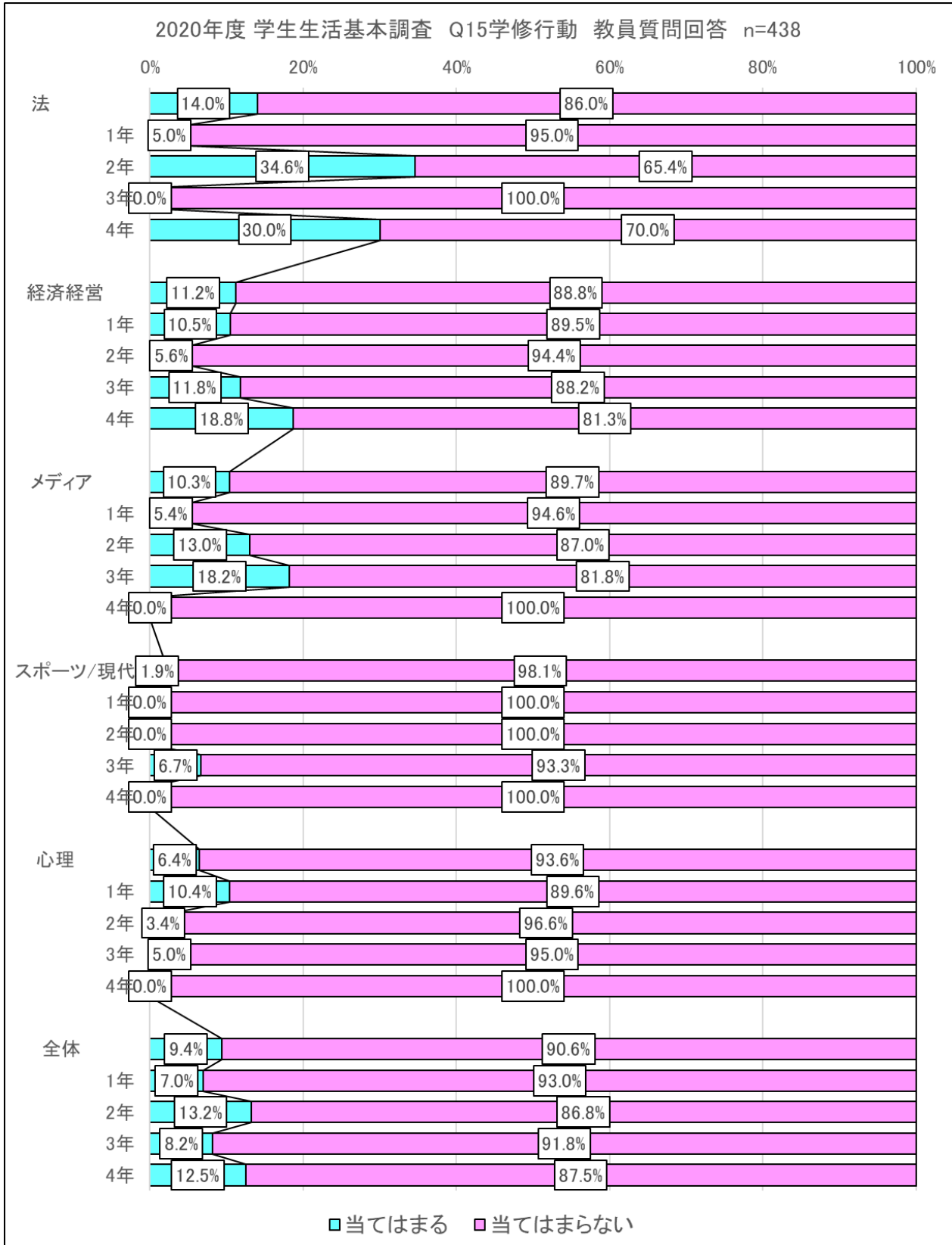


学生生活基本調査 学修行動 ノート工夫 学年別・経年

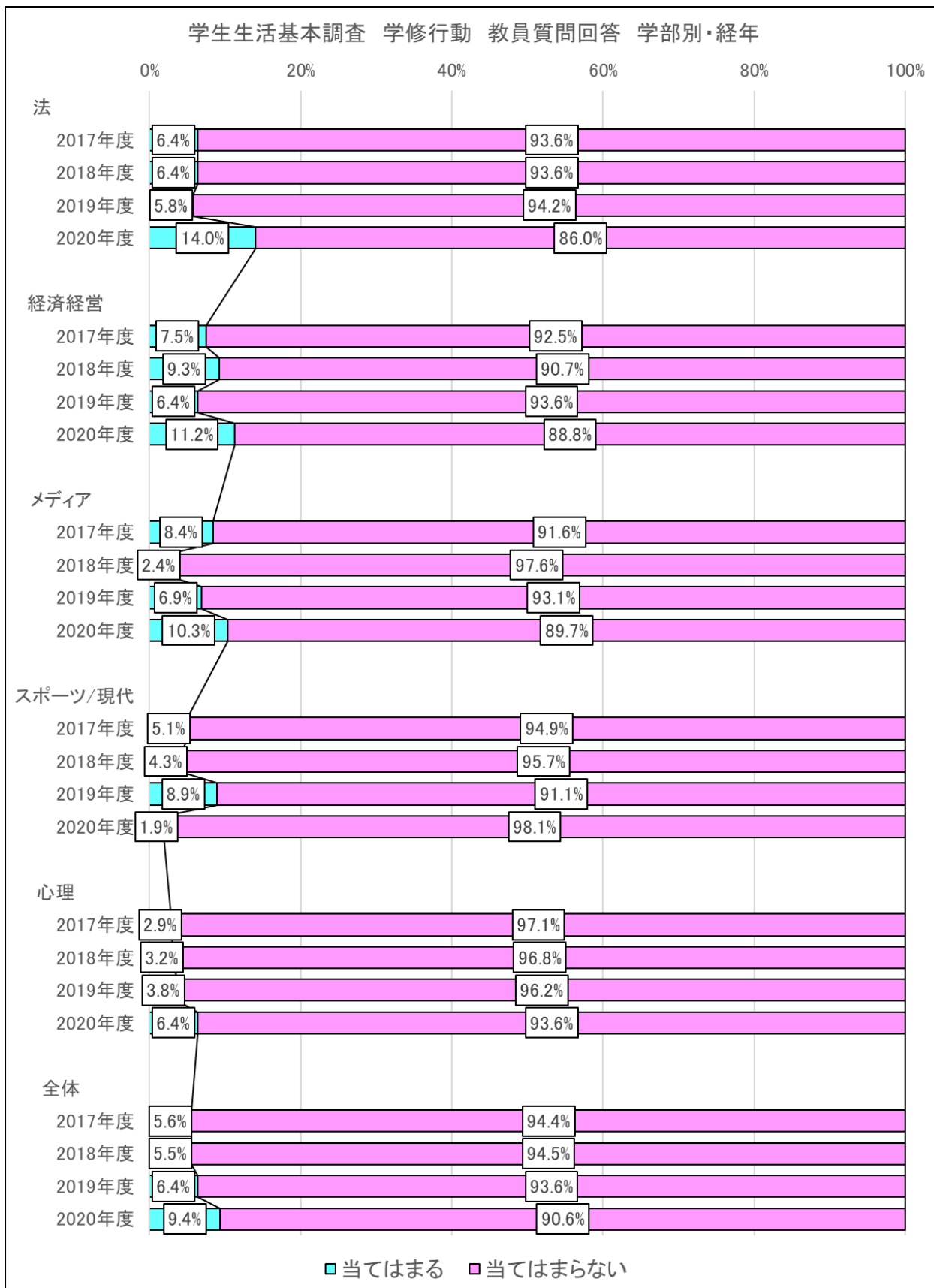


(3) 授業中教員の質問に答える

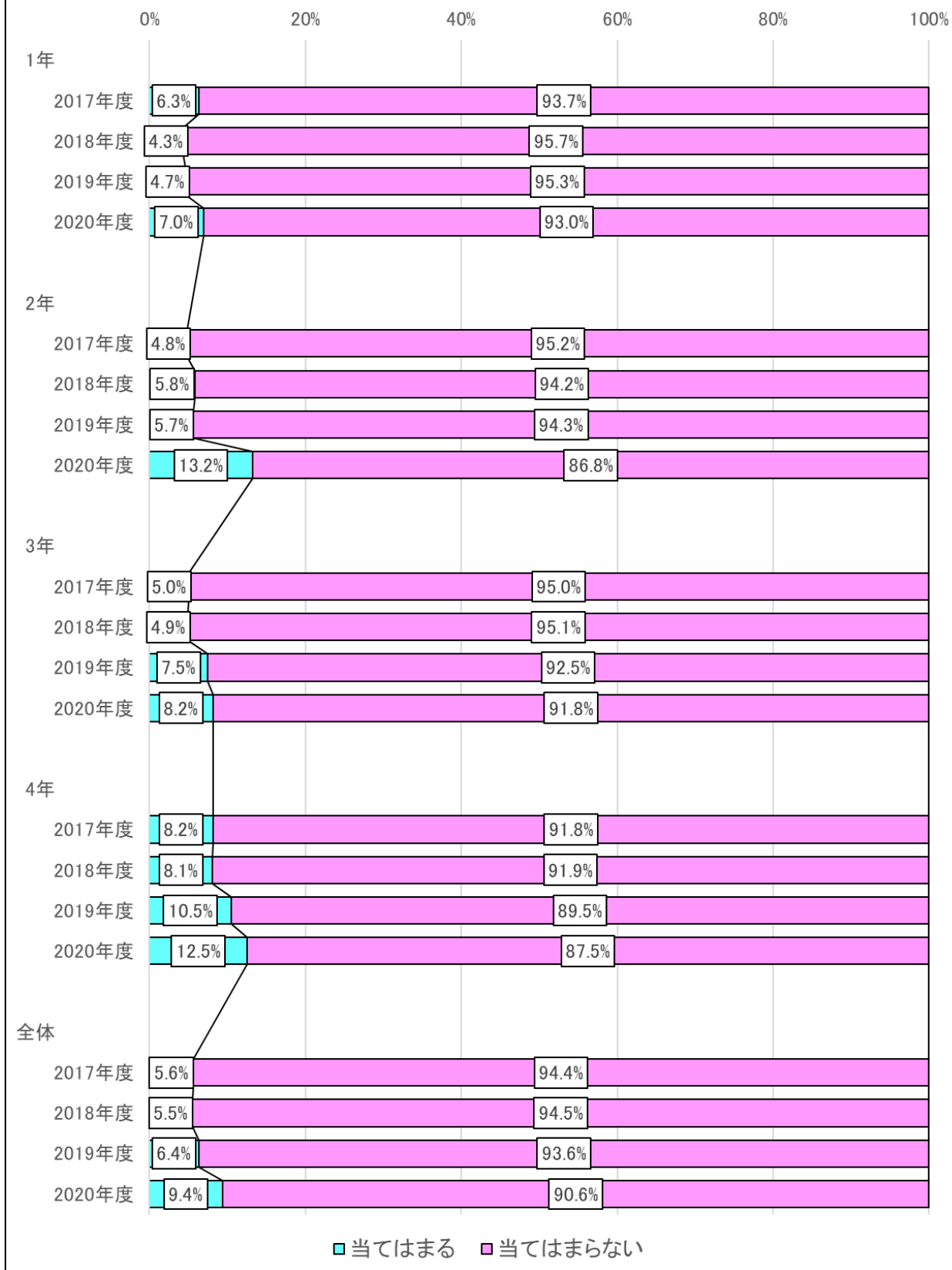
2020年度調査では、全体では「当てはまる」が9%、「当てはまらない」が91%となっています。学部別では法・経済経営・メディア情報学部では「当てはまる」者の割合が10%台ですが、スポーツ科学/現代文化・心理学部では「当てはまる」者の割合が低くなっています。経年では「当てはまる」と回答した者の割合は5%程度であり、2020年度は「当てはまる」の割合が若干高くなっています。また、学年別では1年生で「当てはまる」の割合がやや低く、4年生で「当てはまる」の割合がやや高くなっています。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

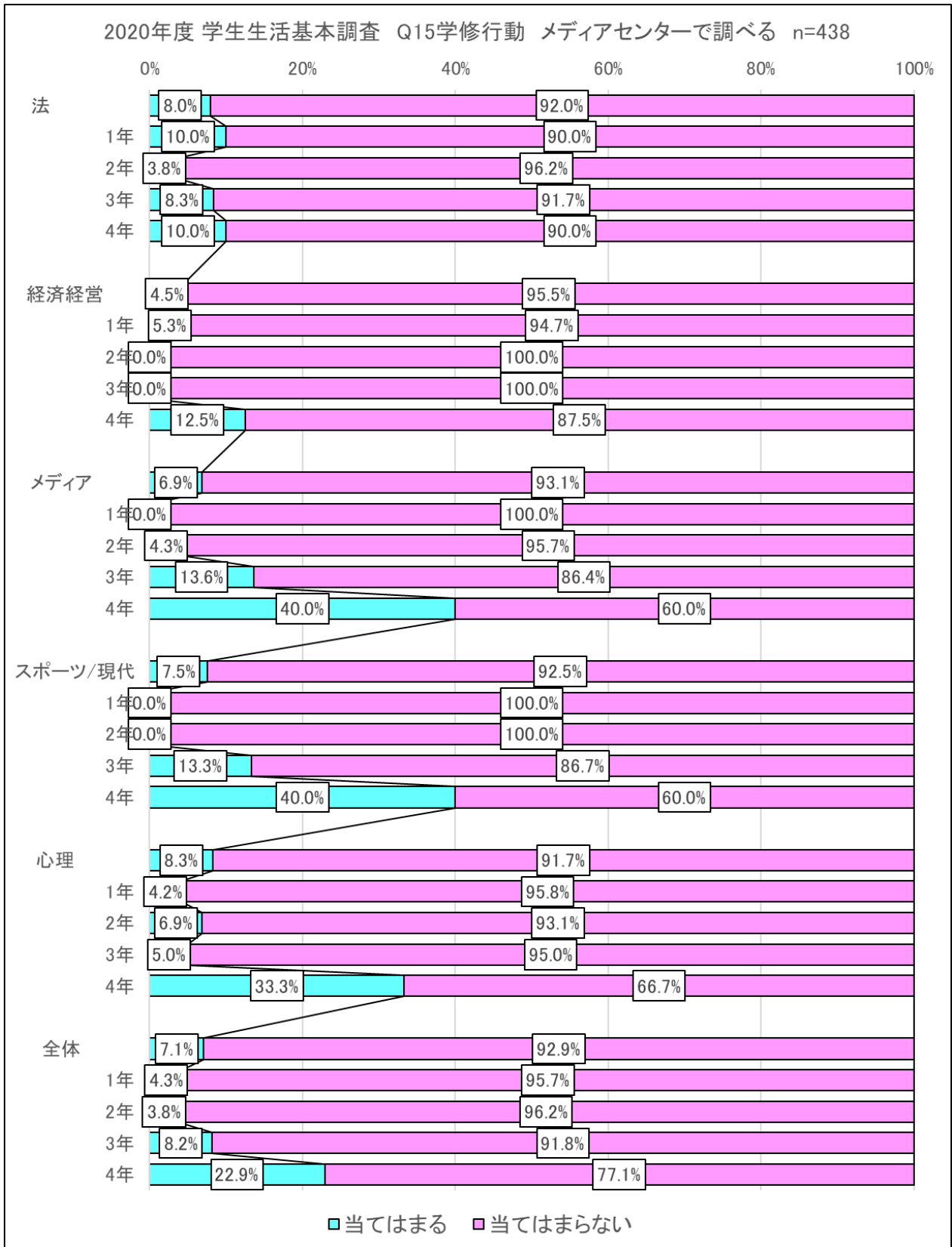


学生生活基本調査 学修行動 教員質問回答 学年別・経年

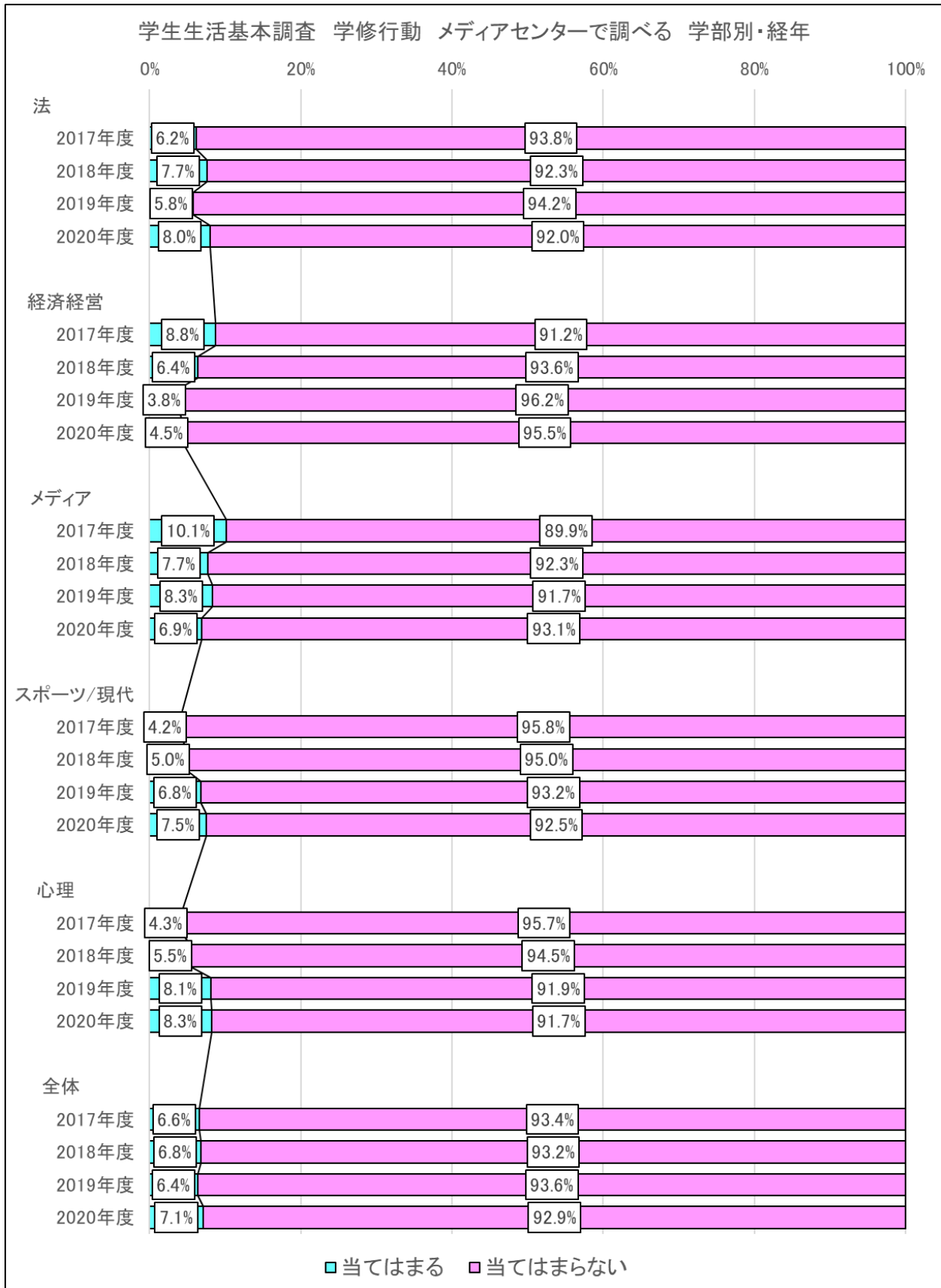


(4) メディアセンターで調べる

2020年度調査では、全体では「当てはまる」が7%、「当てはまらない」が93%となっています。学部別では大きな差は見られませんが、学年別では3・4年、特に4年生で「当てはまる」と回答した者の割合が高くなっており、卒業論文・ゼミ論文作成の関係と考えられます。経年でも2020年度調査とほぼ同様の結果になっています。



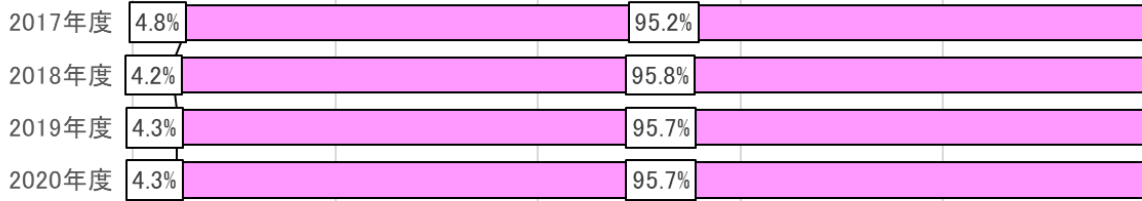
参考) 2017年度から2020年度調査経年比較



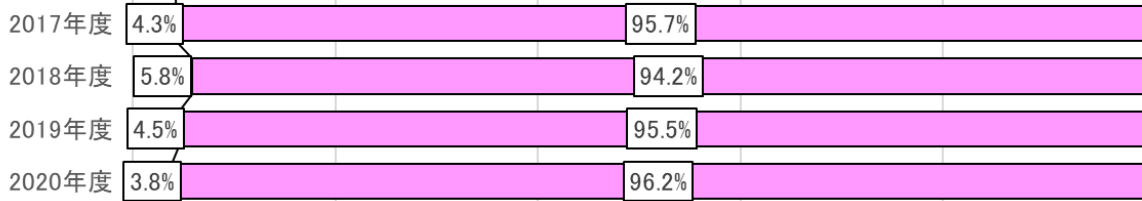
学生生活基本調査 学修行動 メディアセンターで調べる 学年別・経年

0% 20% 40% 60% 80% 100%

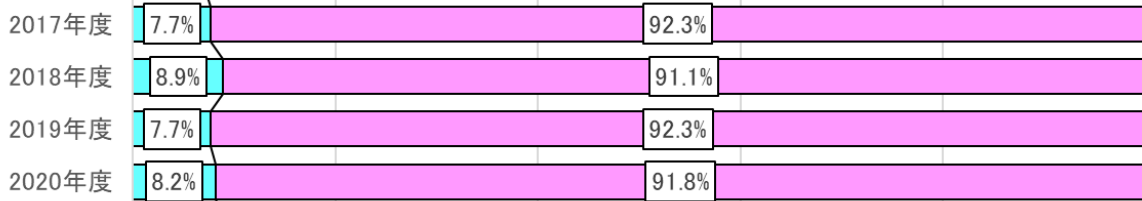
1年



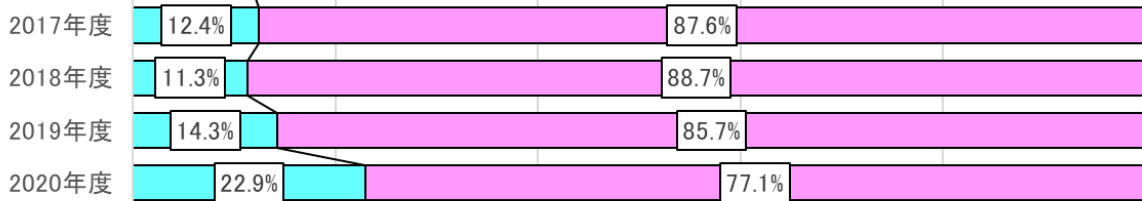
2年



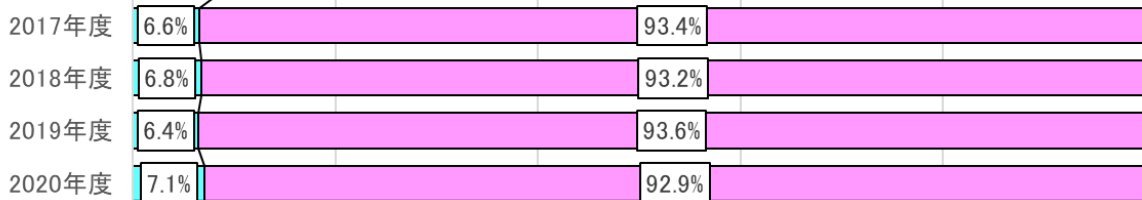
3年



4年



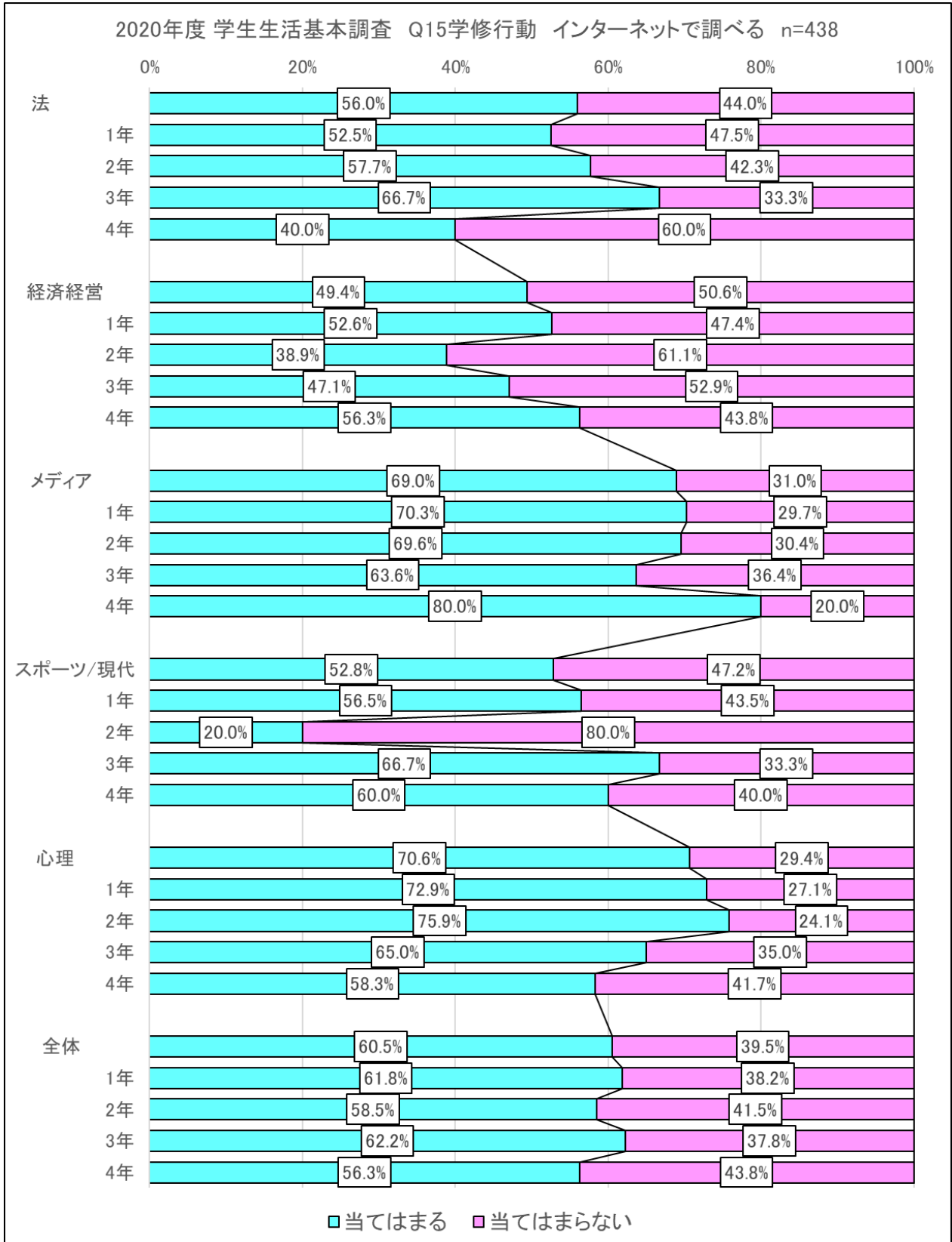
全体



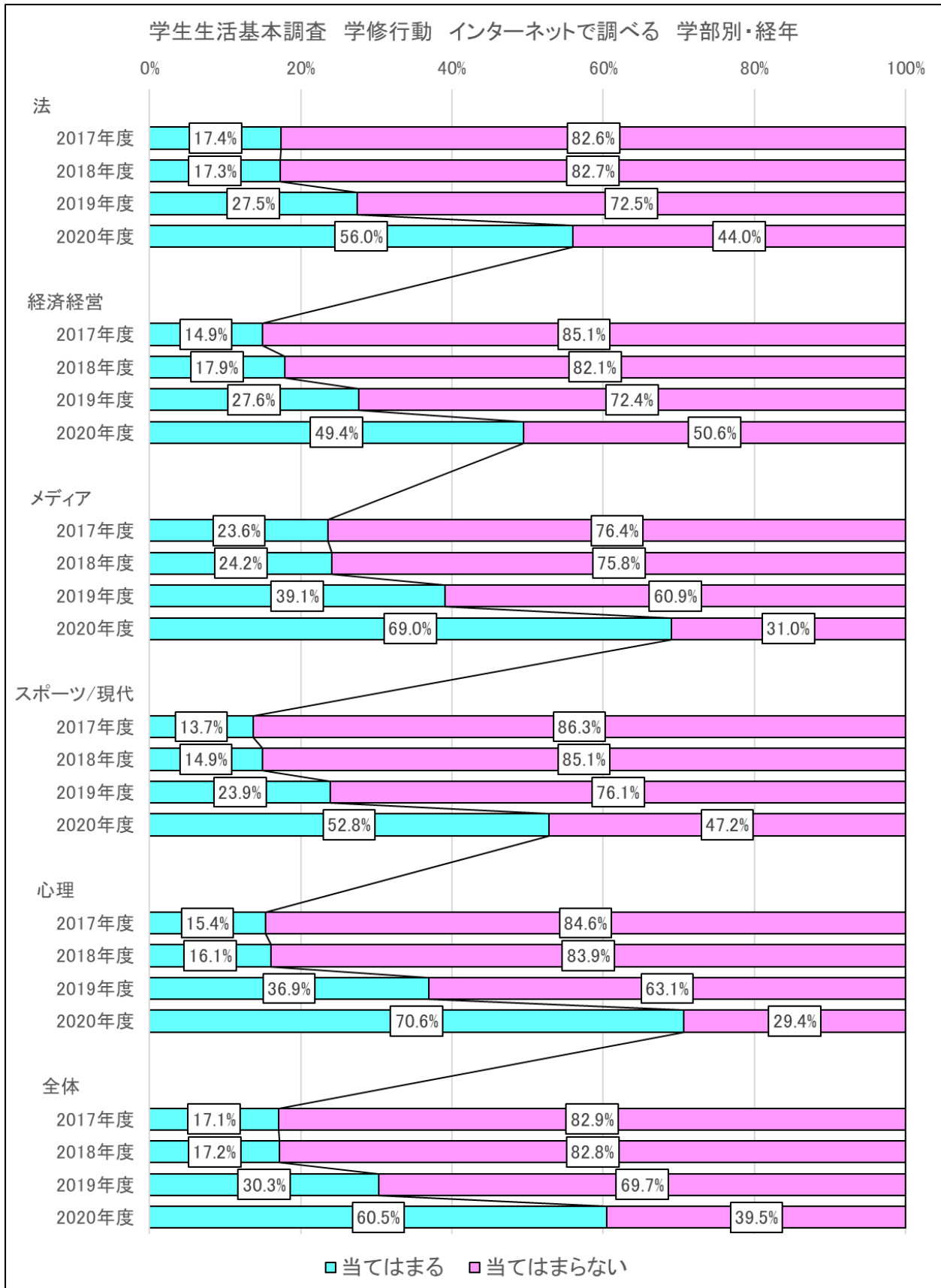
■ 当てはまる □ 当てはまらない

(5) インターネットで調べる

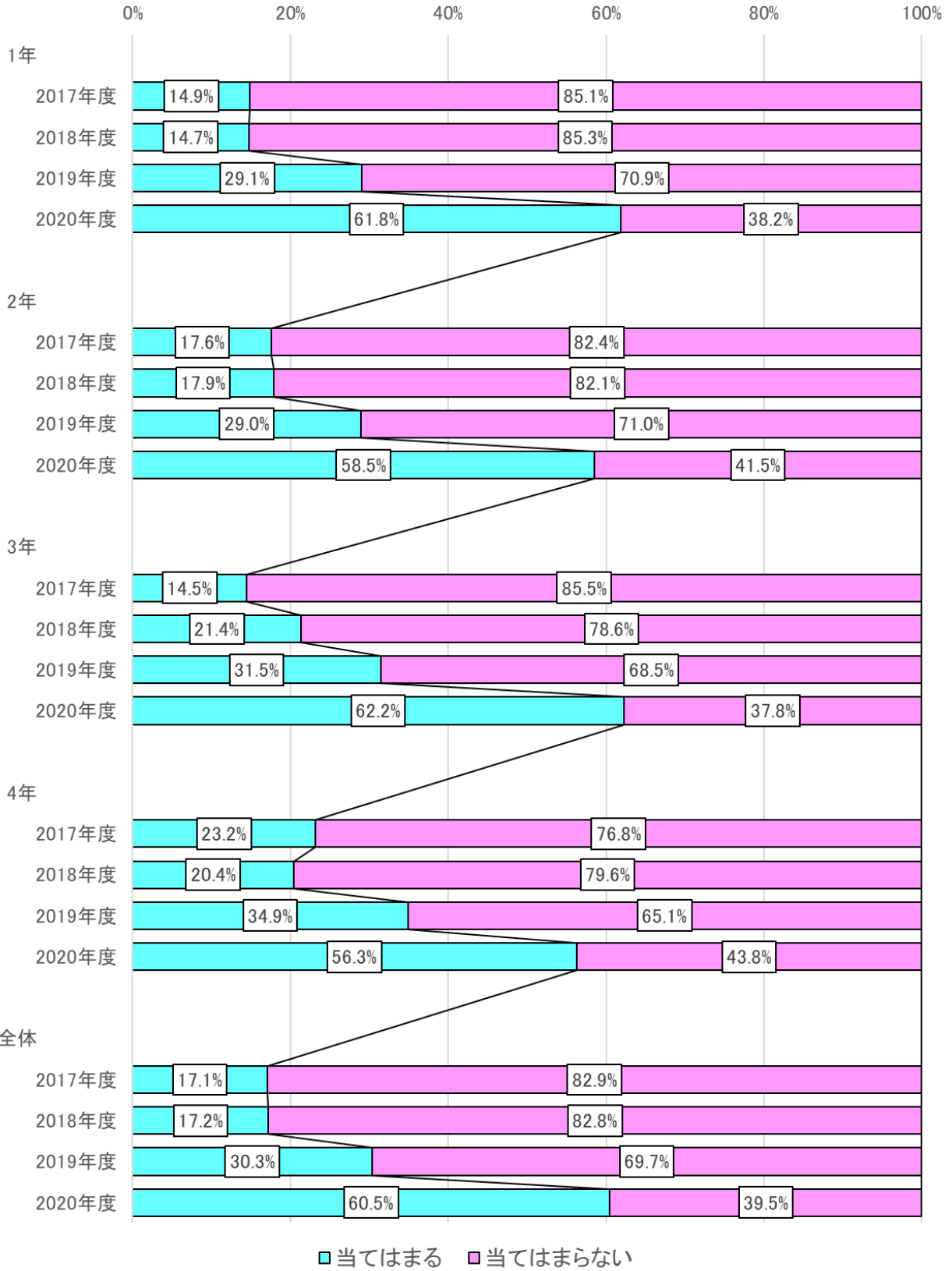
2020年度調査では、全体では6割が「当てはまる」、4割が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部及びメディア情報学部で「当てはまる」の割合が高く、スポーツ科学/現代文化学部及び経済経営学部で低くなっています。学年別では顕著な差は見られません。経年では、2019年度にWeb調査に変更した際に「当てはまる」の割合が高くなる変化が見られましたが、2020年度は「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなっており、オンライン授業の影響が伺えます。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

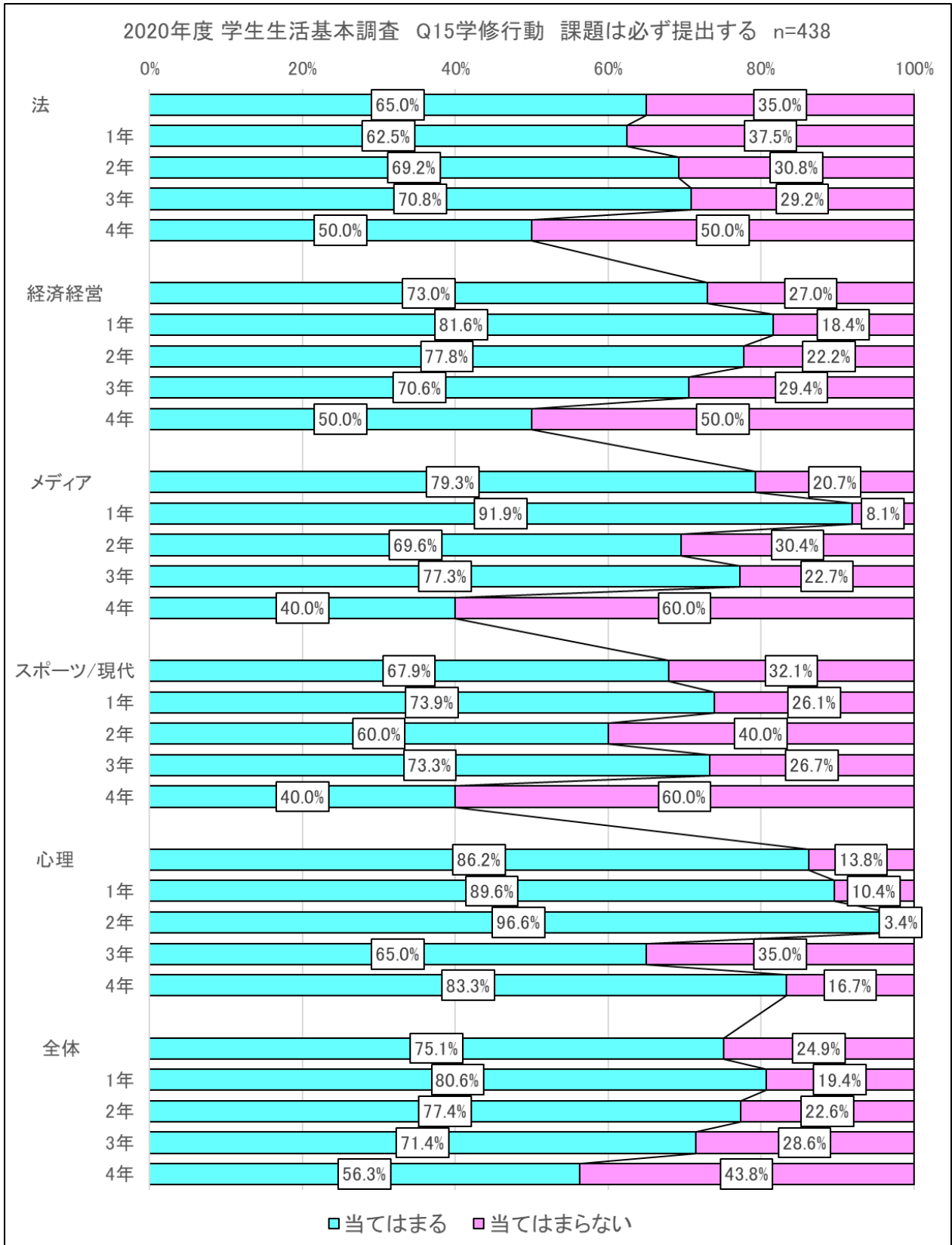


学生生活基本調査 学修行動 インターネットで調べる 学年別・経年

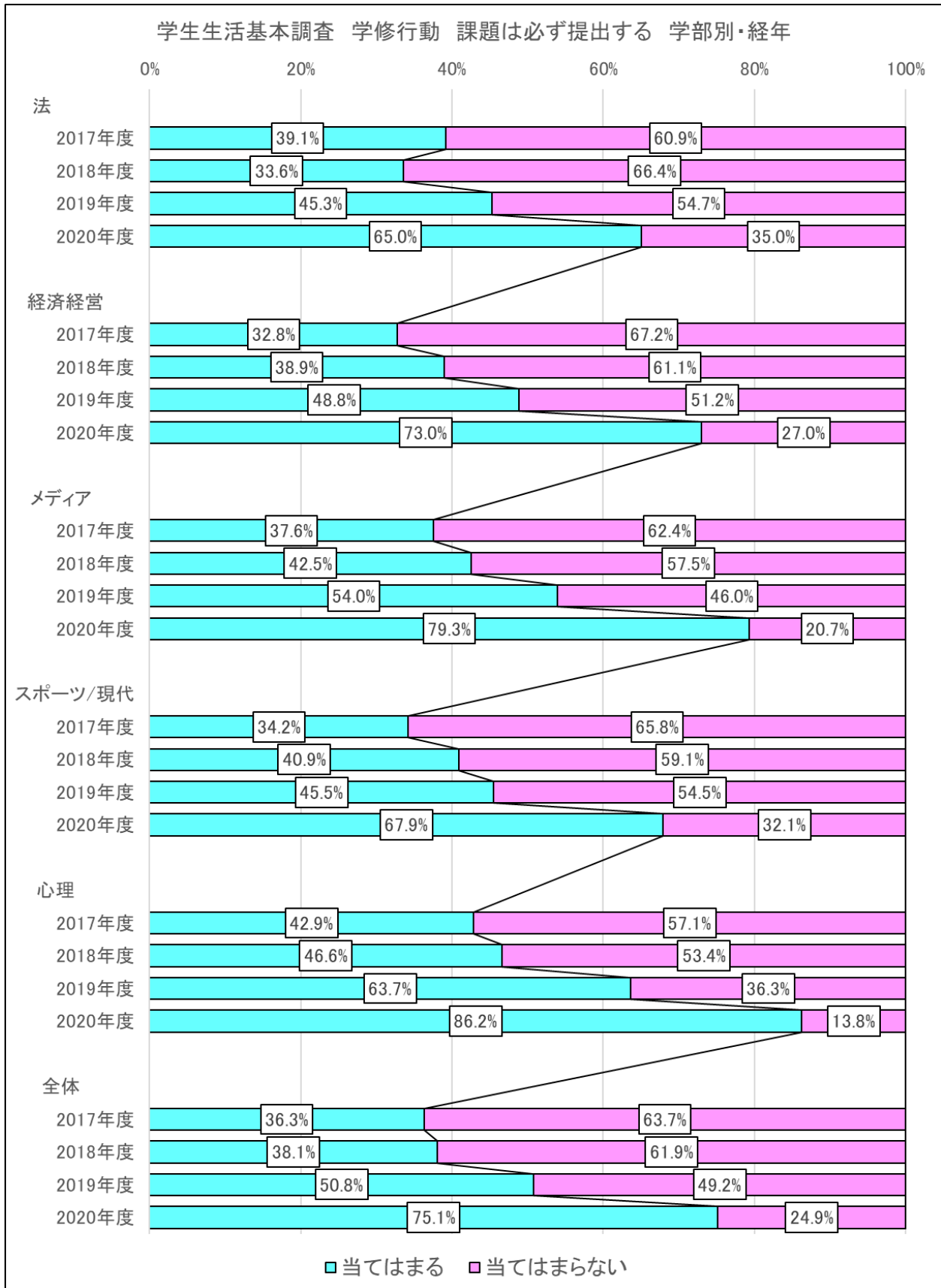


(6) 宿題・課題は必ず提出する

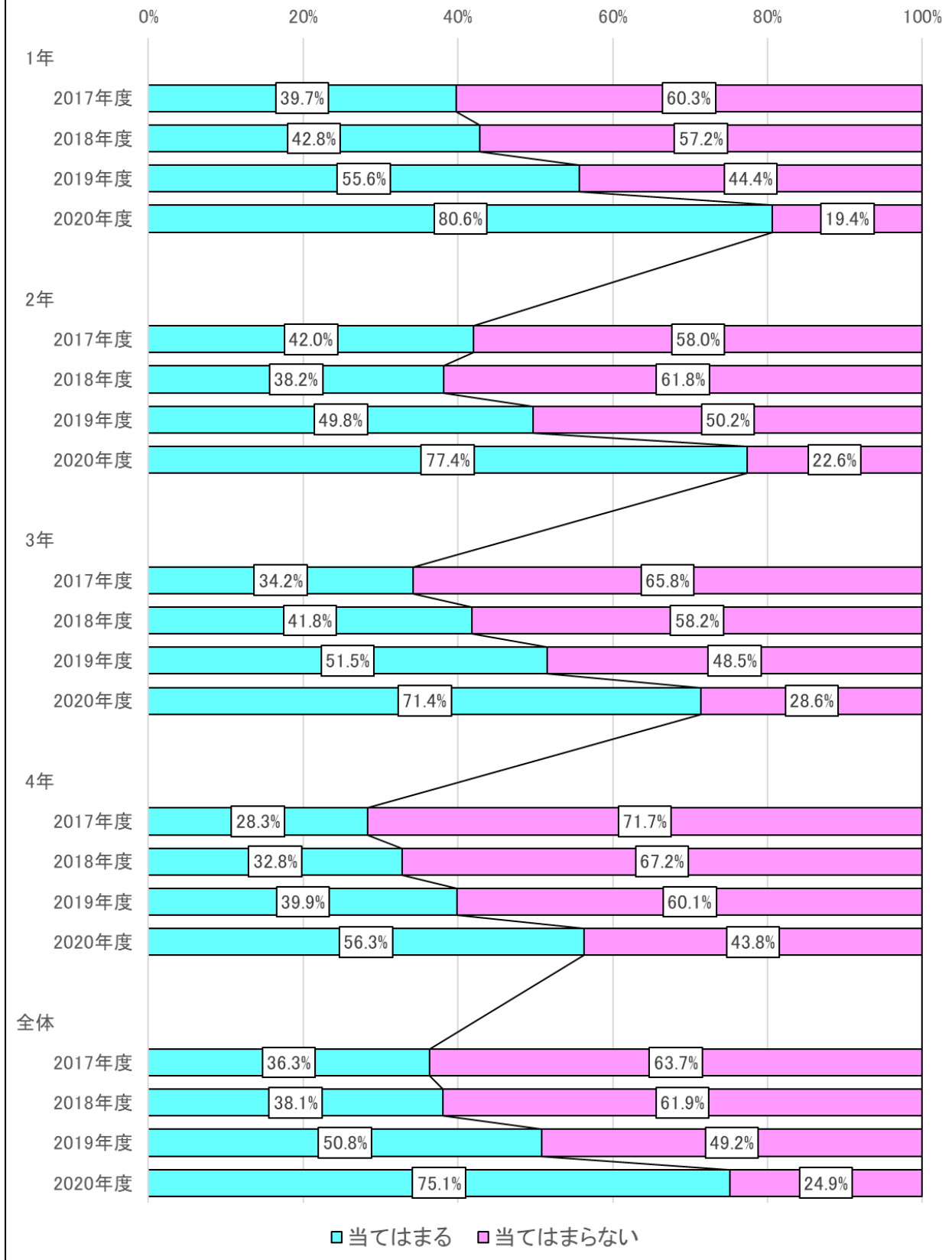
2020年度調査では、全体では75%が「当てはまる」、25%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」の割合が高く、法学部及びスポーツ科学/現代文化学部で低くなっています。学年別では低学年程「当てはまる」の割合が高くなっています。経年では、年々「当てはまる」の割合が高くなる設問でしたが、2020年度は「当てはまる」の割合が学部・学年を問わず大幅に高くなっており、オンライン授業による宿題・課題の増加傾向の影響が伺えます。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

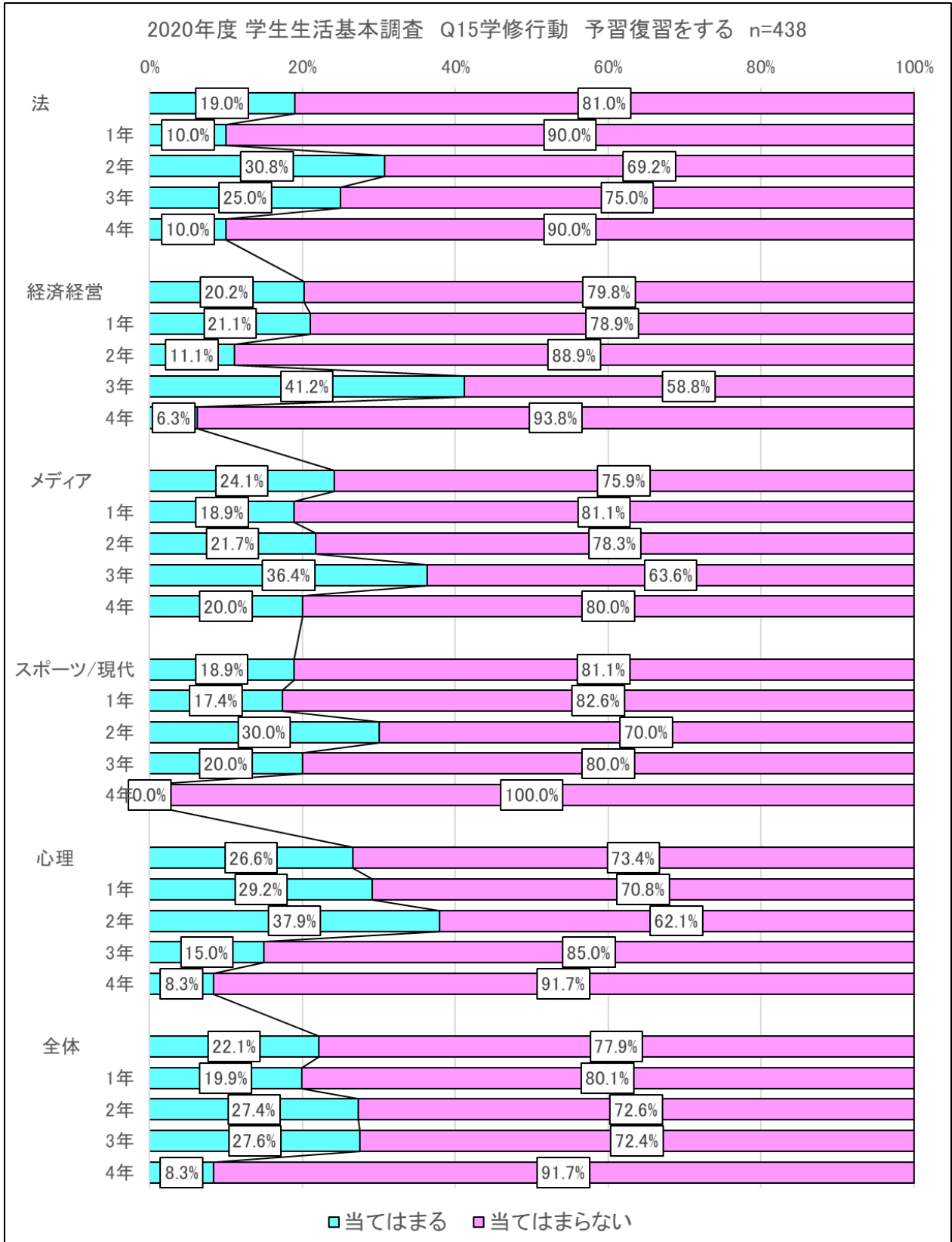


学生生活基本調査 学修行動 課題は必ず提出する 学年別・経年

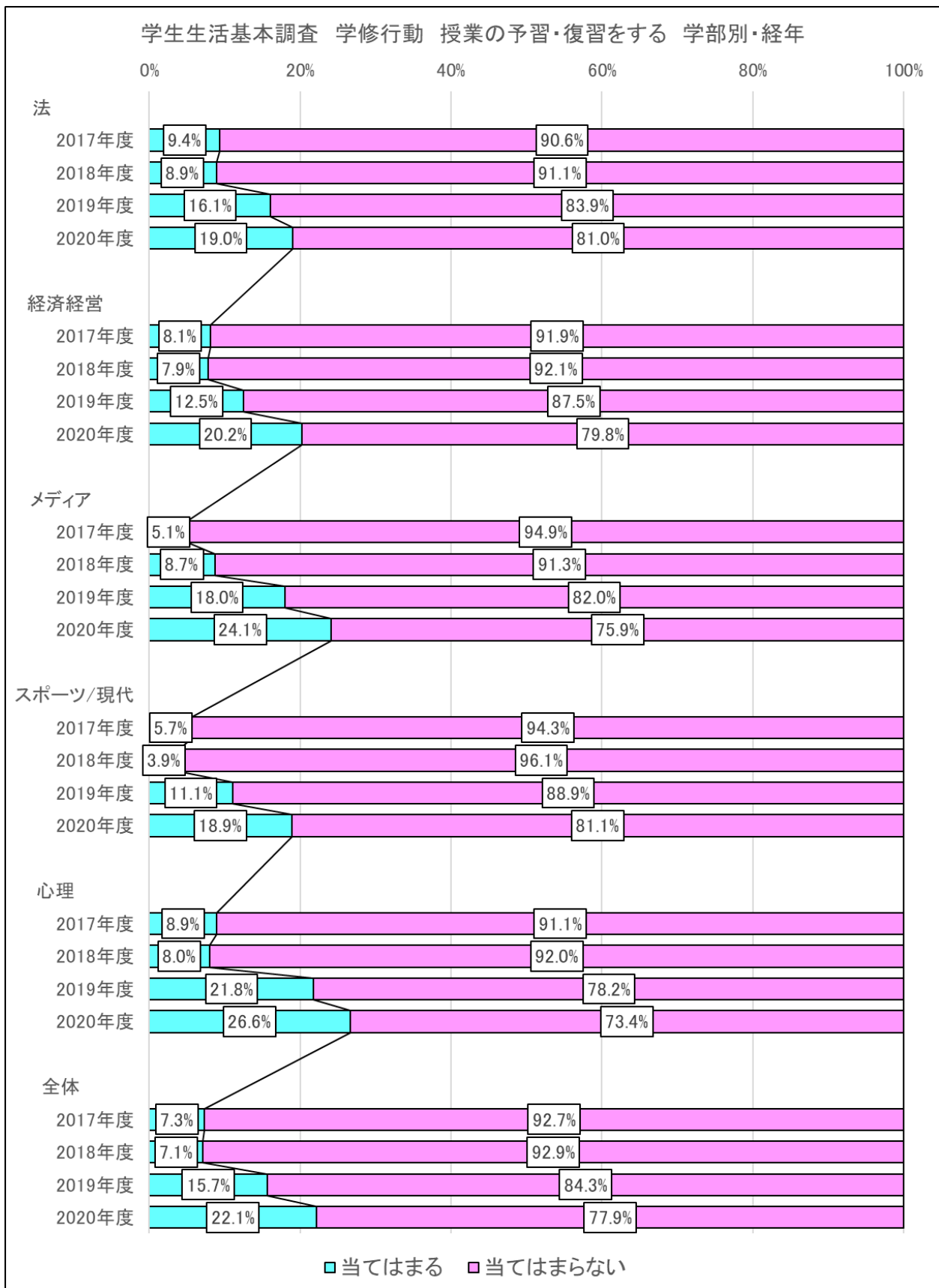


(7) 授業の予習・復習をする

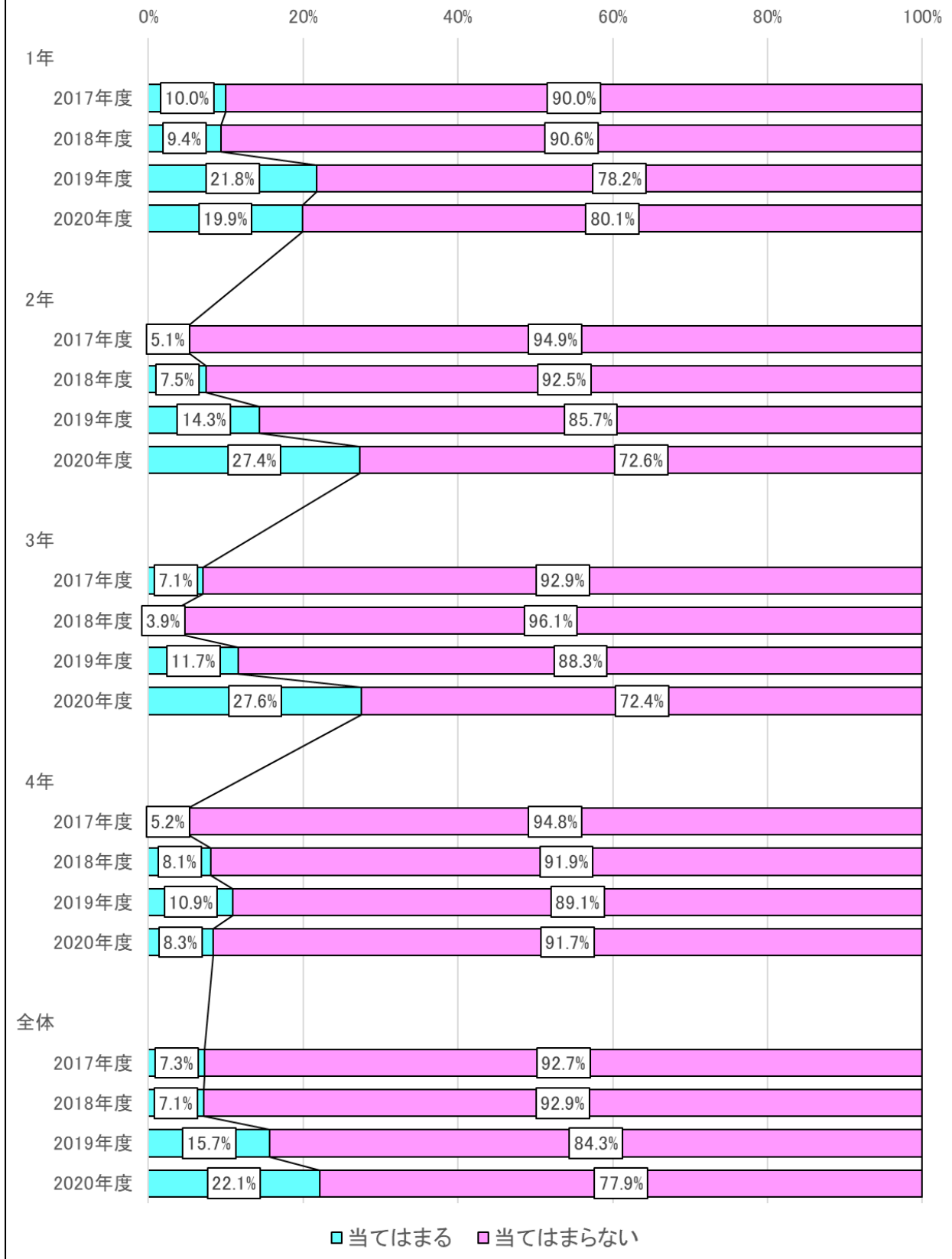
2020年度調査では、全体では22%が「当てはまる」、78%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部で「当てはまる」の割合がやや高く、法学部及びスポーツ科学/現代文化学部でやや低くなっています。学年別では2・3年生で「当てはまる」の割合がやや高くなっています。経年では、2019年度にWeb調査に変更した際に「当てはまる」の割合が高くなる変化が見られ、2020年度もその傾向が続いています。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

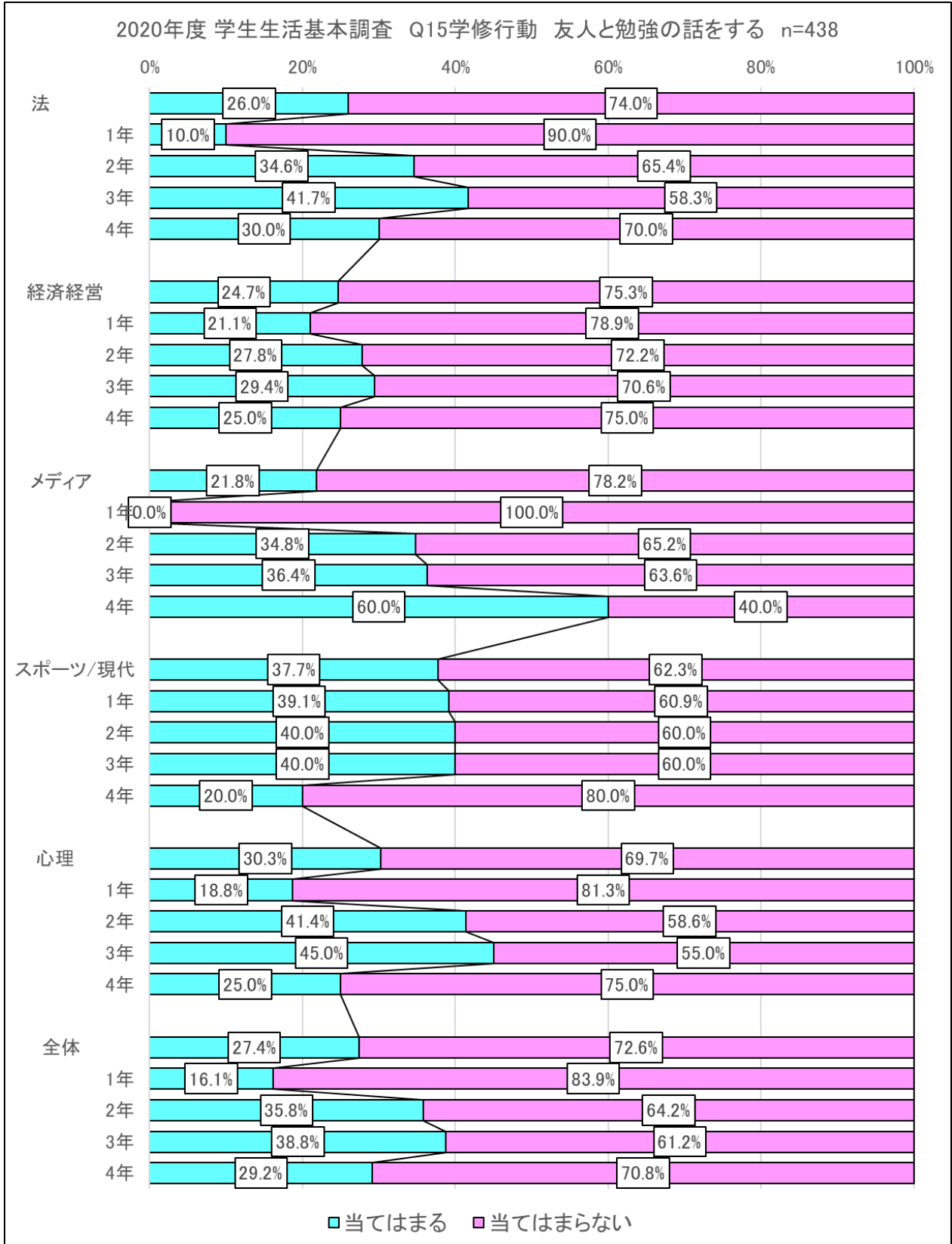


学生生活基本調査 学修行動 授業の予習・復習をする 学年別・経年

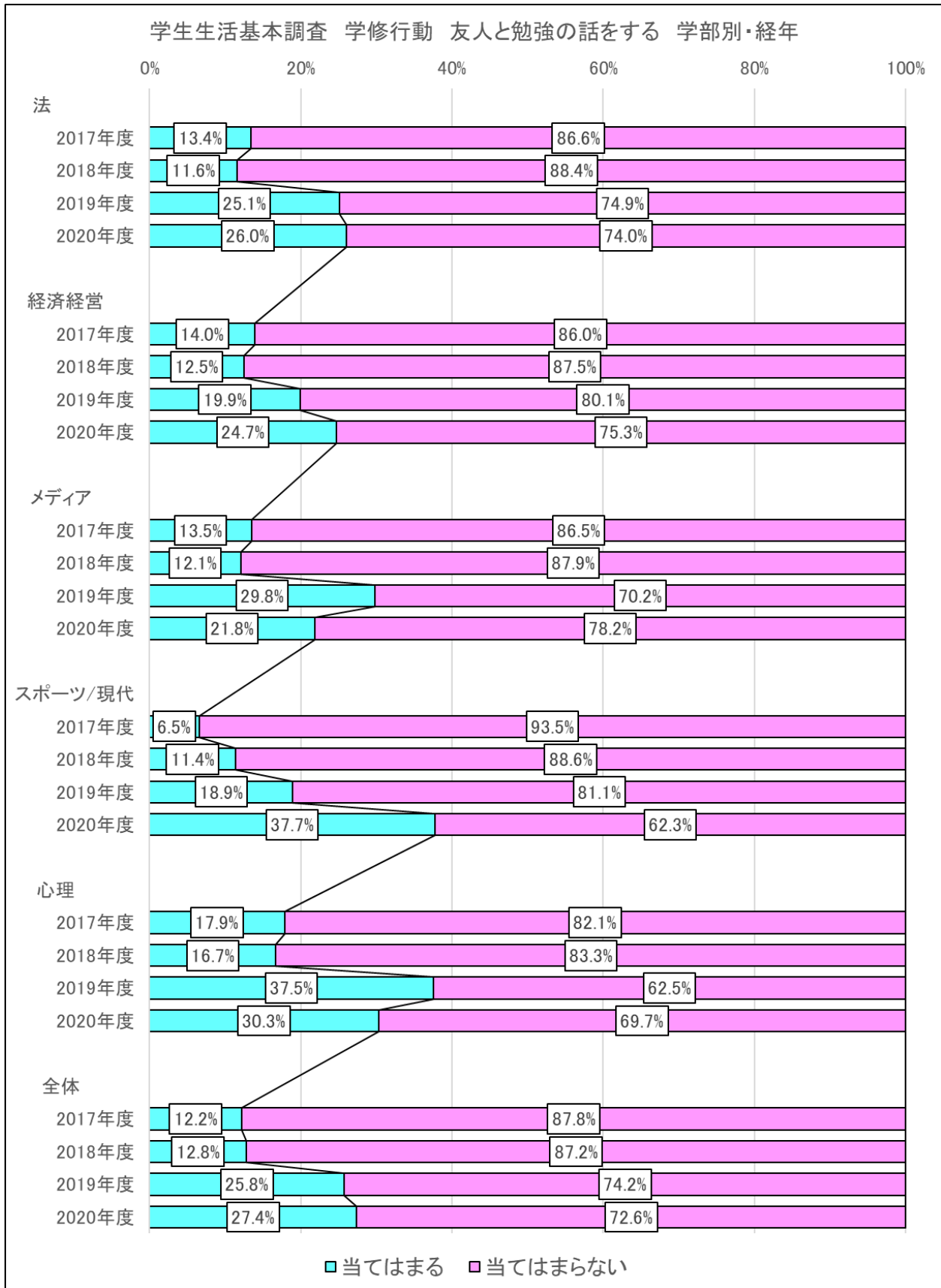


(8) 友人と勉強の話をする

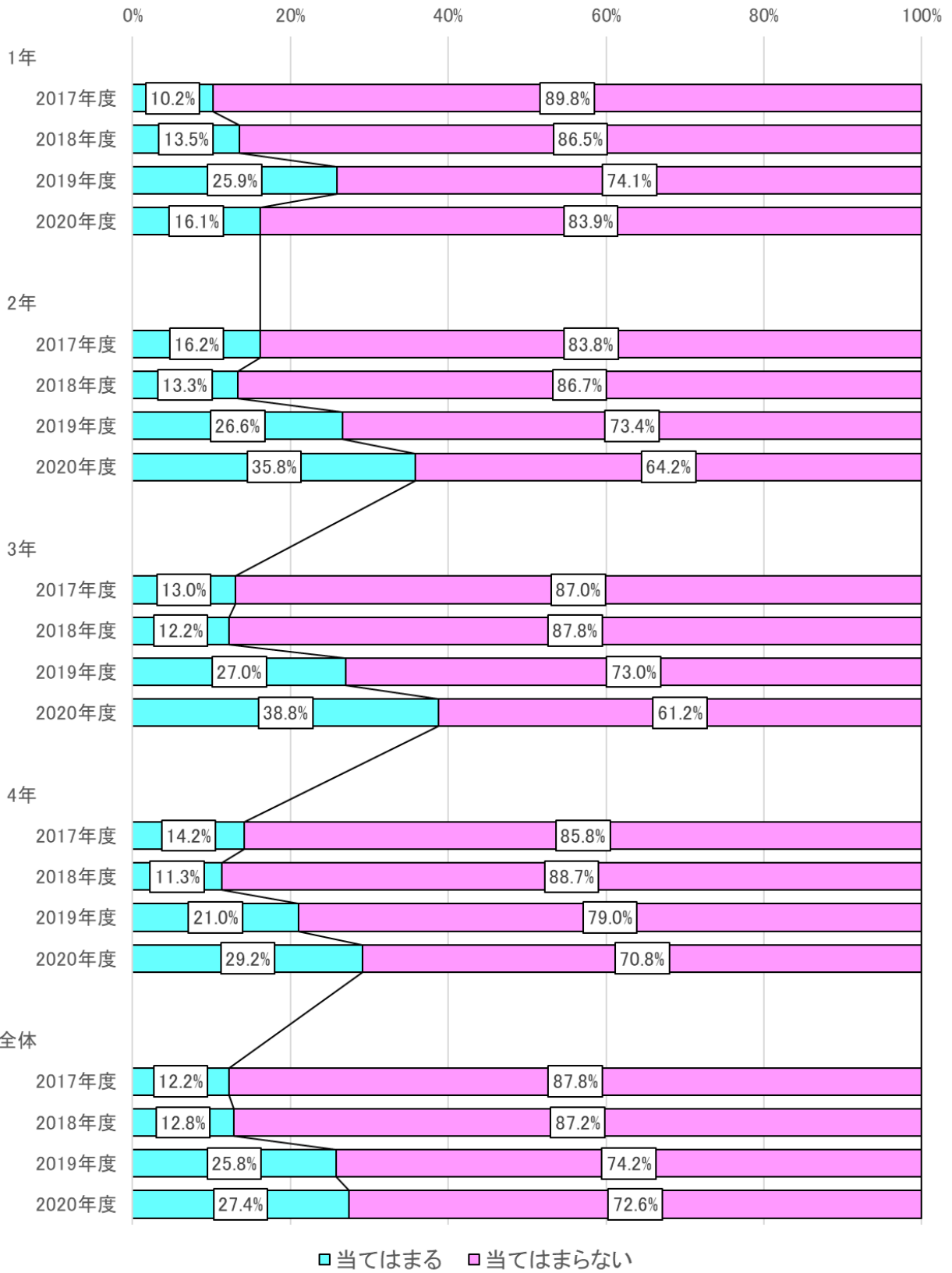
2020年度調査では、全体では27%が「当てはまる」、73%が「当てはまらない」となっています。学部別では、スポーツ科学/現代文化学部で「当てはまる」の割合がやや高く、メディア情報学部で低くなっています。学年別では2・3年生で「当てはまる」の割合がやや高く、1年生は2・3年生の半分以下になっています。経年では、スポーツ科学/現代文化学部における「当てはまる」の割合の高まりと2020年度1年生における「当てはまる」の割合の減少が目立ちます。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較

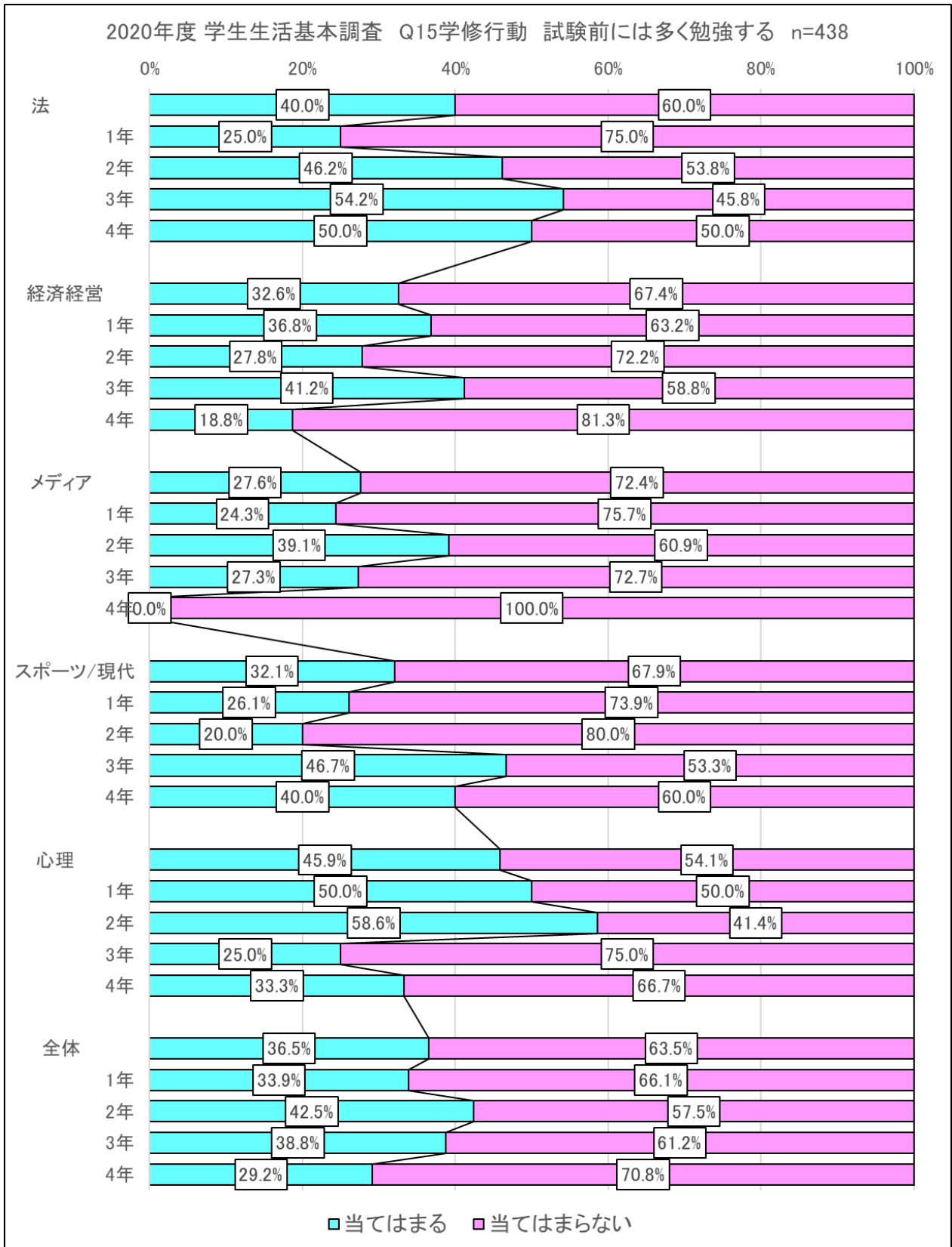


学生生活基本調査 学修行動 友人と勉強の話をする 学年別・経年

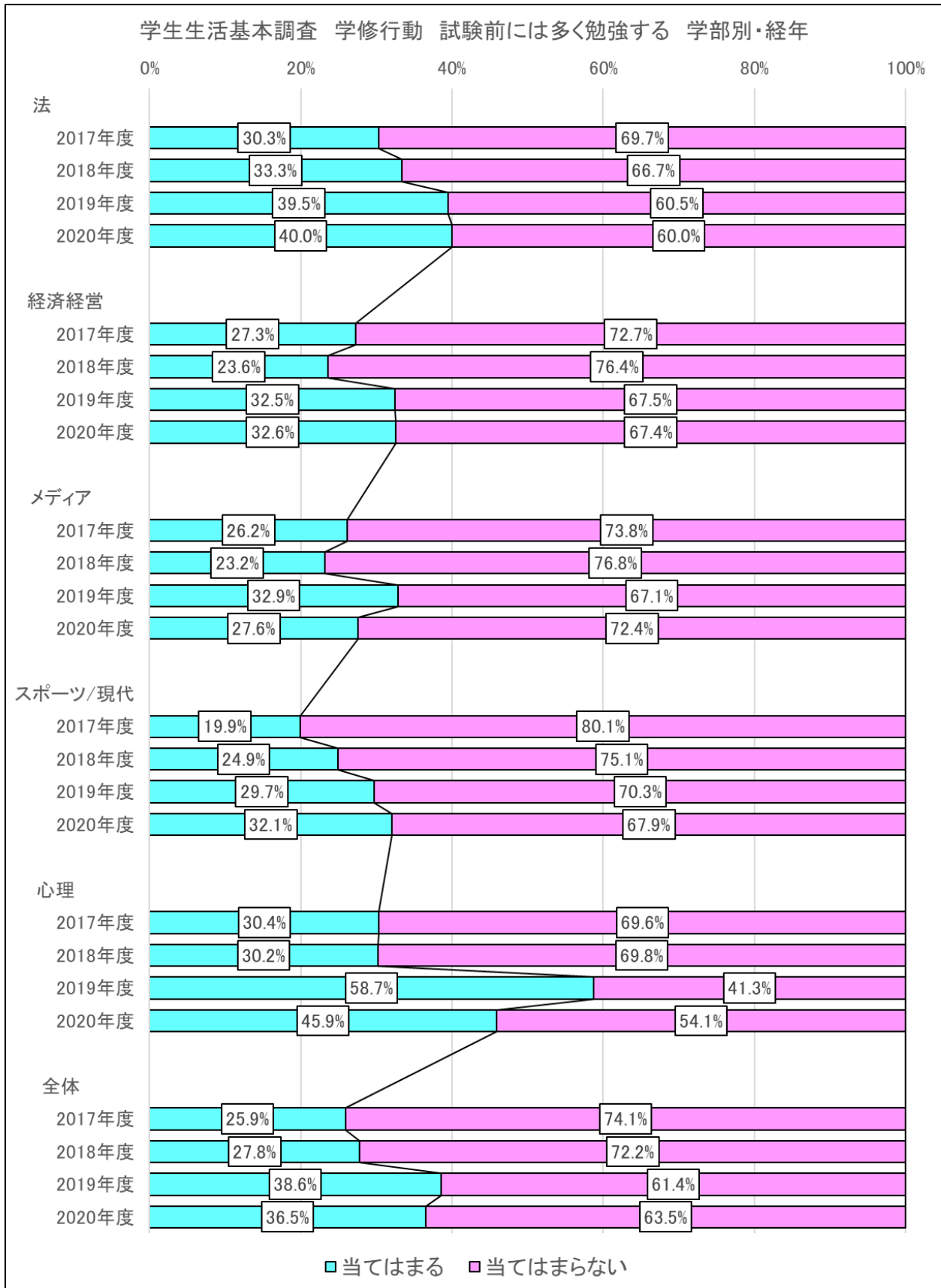


(9) 試験前にはいつもより勉強する

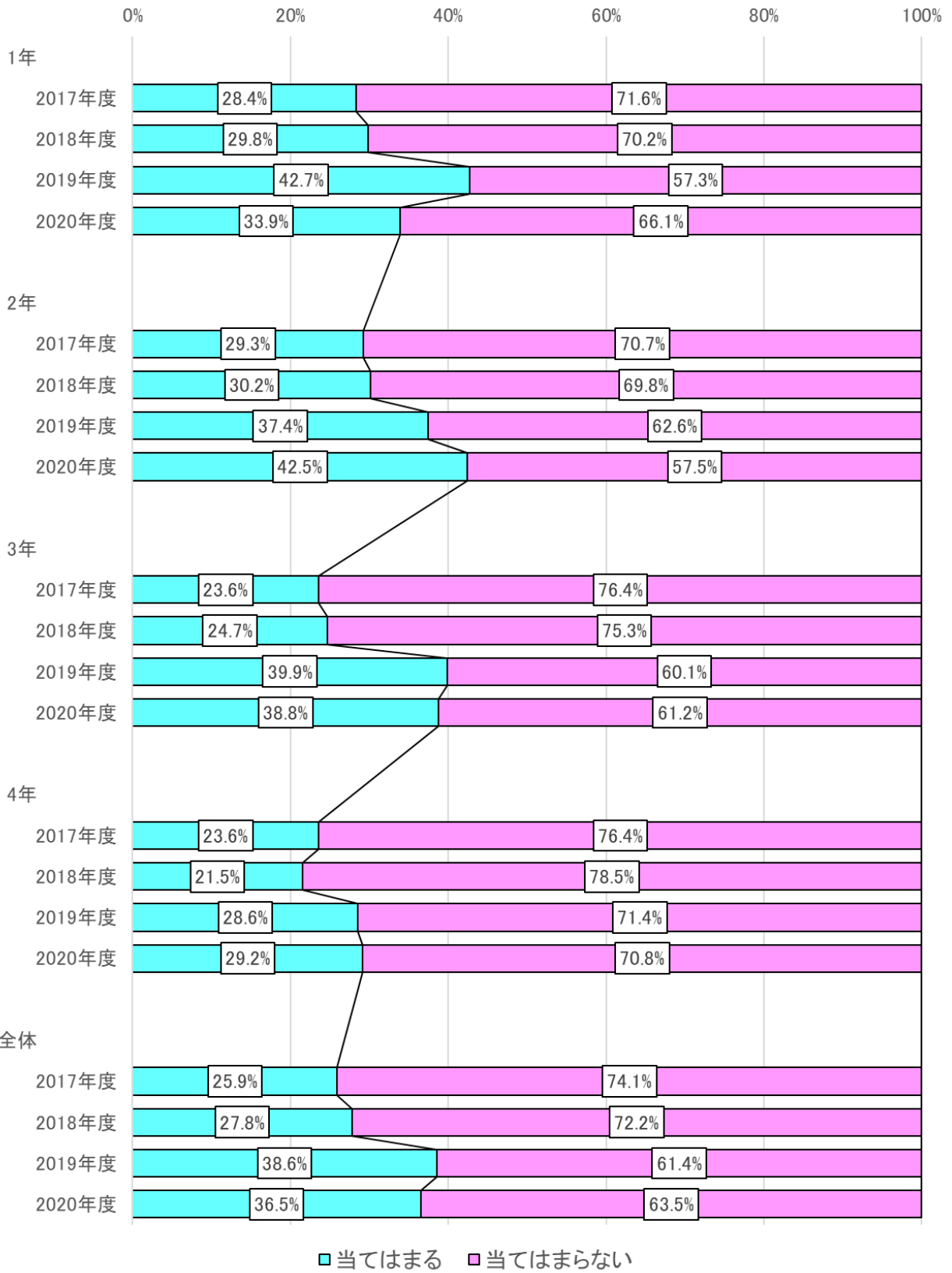
2020年度調査では、全体では37%が「当てはまる」、63%が「当てはまらない」となっています。学部別では、心理学部及び法学部で「当てはまる」の割合がやや高く、メディア情報学部で低くなっています。学年別では2・3年生で「当てはまる」の割合がやや高くなっています。経年では、学部別では心理学部、学年別では2・3年生における「当てはまる」の割合が増加傾向にあります。



参考) 2017年度から2020年度調査経年比較



学生生活基本調査 学修行動 試験前には多く勉強する 学年別・経年



5. まとめと改善案

授業外の学修時間について、2020年度調査では1時間未満（「0分」「30分未満」「30分～1時間未満」）を回答する者の割合が大幅に減少し、3～10時間（「3～5時間」「6～10時間」）の割合が大幅に増加しました。なお、11時間以上（「11～15時間」「16～20時間」「20時間以上」）を回答する者の割合は余り変わっていませんでした。前3年と比べ、全体の学修時間は増えています。2020年度はオンライン授業が初めて本格的に導入された年度であり、期末試験の実施が困難ななか課題やリアクションペーパーの実施頻度が増えたことが授業外学修時間の増加に大きく影響していると考えられます。

学部別では、スポーツ科学部/現代文化学部で1時間未満の割合が34%と最も高く、学年別では、1年次で1時間未満の割合が30%と最も高く、3時間以上の割合も44%と最も低くなっており、履修科目数が多い1年次の授業外の学修時間が少ないという結果になりました。1年次生にとっては、入学と同時に慣れないオンライン授業に取り組みなければならず、Moodleなどに慣れる時間がかかったことが1年次の授業外学修時間が他年次よりも少ない一因として考えられます。したがって、学年や授業実施形態に応じて、適切な授業外学習を促すような予習復習、課題の設定等を工夫する余地があるとともに、特に1年生に対してはシラバスやMoodleを通じて授業外の学修方法についてわかりやすく説明する必要があるものと思われます。

また、週当たりアルバイト時間との関連では、2020年度においては、「8時間未満」「していない」の層では、他の層に比べて授業外学修時間1時間未満の割合が高くなっています。この結果から、アルバイトをしない（または時間が短い）学生の割合が高くなったにもかかわらず、そのなかで学習も行わない学生の割合も上昇していることが示唆されます。コロナ禍により大学の教員や友人とのコミュニケーションが制約されるなかで、勉学や学生生活に関する目標や意欲を喪失している学生が一定規模存在する可能性が懸念されます。

学修行動では、前3年に比べ、「インターネットで調べる」「宿題・課題は必ず提出する」「授業の予習・復習をする」について、「当てはまる」を回答した者の割合が高くなっています。この傾向は学生の主体的学びが促進されている点において肯定的な効果が得られていることを示唆します。一方、学生からは「課題が多い」という不満も見られたことから、学生に無理ない分量の課題と学修時間の設定等を組織的に取り組むべきであると思われます。学年別では1年生について「友人と勉強の話をする」で「当てはまる」の割合が他学年に比べて低くなっています。入学時の春学期に対面授業がなかったことから1年生にとっては友人作りが困難な状況であったことが影響しています。秋学期からゼミや実技・実習系科目などで対面授業が再開されることで学生同士の交流が可能になりましたが、今後もゼミ等少人数クラスを通じて「友人と共に学ぶ」環境づくりが改善課題として考えられます。

以上